

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答) ※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
1	42	7	1	新人研修 NLP 交流分析 カリキュラム評価	(30日)1.5時間×週1 2時間×3 3時間 5時間	
2	57	16	2	・サジェストベディ ・コミュニケーション・トレーニング ・交流分析	(2日間、6時間) (5日間、10時間) (2日間、6時間)	
3	56	10	2	①問題発見・解決力を伸ばす(産業能率大学通信限定) 目的:上級学生の選択授業作成のため	①2009年3月1日～2009年6月27日(約30時間)	・出身地/母語別の発音指導。
4	55	22	2			
5	51	20	2	1 国研の教師研修(教室内でのインターアクション) 2 校内での研修(コーチング、交流分析、シャドーイング、キャンドウ、セフなど)	1. 10ヵ月ぐらい 2. 各2時間	
6	40	11	2			コンピューターを使った授業を行うための研修。
7	37	8	2	新人研修	6ヵ月	
8	36	5	2	①初級・初めての日本語学習者への授業の進め方、学習者の対応、教案の提出、フィードバック、クラスマネージメント。 ②中級・初級の学習者から中級へ進む学習者への指導。トピックシラバス-分析力を身につける学習者へのフィードバック。	①3ヵ月間の研修、1週間に1時間=20時間 ②3ヵ月間の研修、1週間に1時間=20時間	・中級学習者への評価基準を学び、評価を行う。 ・ニュースや新聞などの生教材作成。効果的な授業を行うための取り組み。
9	33	7	2	導入方法…授業で扱う文法の導入を講師数名の前で行い、ダメ出しをもらう。 教案チェック、クラスマネージメント…指導担当に授業の進め方についてアドバイスをもらう。 他講師の授業見学…他講師のやり方を見て、今後の授業について意見、感想を書く。	3ヵ月 6ヵ月 6ヵ月	
10	32	10	2	新人トレーニング。初級授業の教え方。導入方法・ドリル練習。	週1～2回、2時間/回。計6ヵ月間。	・ビジネス日本語で必要とされる能力が何か。それをどう伸ばしていくか。 ・外国人(人)、児童への日本語教育。
11	32	4	2	1. 教案チェック(初級) 2. クラスマネージメント 3. 授業のすすめ方(初級・中級) 4. 教材の使用法(文法事項の取り扱いなど)中級	1. 3ヵ月間、週2回×2時間程度 2. 1回、1時間程度 3. 3ヵ月間、週2回×2時間程度 4. 2ヵ月半、週1回×2時間程度	
12	45	18	1	・初級の教え方 ・中級テキストの進め方 ・青年海外協力隊派遣前研修 ・主任教員研修	①75×3～4時間(+模擬授業) ②75×3～4時間(+模擬授業) 1週間 3日間	・日本語教師のセルフカウンセリング、メンタルトレーニングなど 学習者が多様化し、様々なトラブルに見舞われることも少なくない。教師として、問題ある学生に相手する際に求められる精神力を培うことも必要だと思ふ。 ・授業分析・交流 各教育機関独自の授業見学だけでなく、他教育機関の授業を見学し、意見交流することで新たな視点が見つかることだろう。
13	28	3	2	テキスト「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」「中級から学ぶ日本語」を使用した授業の進めかたの説明、模擬授業。そのフィードバック、また、教案提出や他教師からの授業見学、そのフィードバック及び他教師の授業見学、その授業についてのレポート提出。さらに、ビデオ撮影や音声テープに録音。(自分の授業の)	2008年9月～約半年間。不定期で行われていた。	・教師の日本語力アップのための研修 現状で満足するのではなく、授業に対応する日本語力だけでなく、常にレベルアップを計り、人間性を豊かにしていきたいので。 ・他教師の授業の授業 授業を行えば行うほど慣れてはくもの柔軟性がなくなり、考え方や物の見方が偏りがちになってしまう。常に、刺激を与えられないためにも定期的にを行うよと思ふ。
14	25	4	1	・新任研修(みんなの日本語の進めかた) ・担任研修(担任業務) ・中級研修(「テーマ別中級から学ぶ日本語」の進めかた) ・研修会(学生指導・教授法・自己啓発など)	4日間×2時間 1時間 3回×1時間 月2回×1時間半×4年	・学生の心のケアの方法 ・総合力アップのためのカリキュラム・教授法 ・進路指導(就職含む) ・各国の国内の受験(教育)事情等学生の置かれている現状の把握 ・他の教育機関との意見交換 ・学生の立場から見た日本語教育
15	26	4	1	・初級の教え方 ・模擬授業 ・授業見学 ・3ヵ月目・6ヵ月目にビデオ撮影	90分×3コマ 約20分×3回 100分×3コマ 自己反省のみ 研修期間(半年間)	日本語の授業が、実際にどのような形で行われているか、想像しにくい。授業見学は研修の中に含まれているほうがよい。
16	29	5	2	テキスト「みんなの日本語」のⅠとⅡ、「テーマ別中級から学ぶ日本語」とそれに付随するワークブックにおける言葉や文法等それぞれを進め方を講義形式で学び、また、常勤講師の実際の授業の見学、模擬授業も同時に行われた。	3週間(1週間に2日、1日4時間)	類似語や類似文法の違いを明示することは常に求められることなので、その分析方法を考えたり実行してみたりする時間があれば、以降にも繋がると思う。
17	27	5	1	①新任講師研修。初級の進め方+模擬授業、授業見学。テキスト:初級「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」。中級「テーマ別中級から学ぶ日本語」 ②研究会。講師のある項目について研究をし、その成果や発見、研究結果報告を行い、それについて意見交換、提案を行い、内容をよりよいものにしていく。発表者は、講師全員順番に担当。研究テーマは幅広く、文法項目、学生の誤用分析などの具体的なものから、指導法、教授法、イベント、教師の成長等、多岐にわたっている。	①2週間、1日4時間程度 ②1ヵ月に2回、1.5時間	個別の能力に特化したカリキュラムから実際の教授法まで。(特化したものに目を向けることで、また全体を見直すことができるのではない)。又、ビジネス日本語や医療用語等、今後の学生は多様化すると言われているので、対応できるように様々な分野の日本語を研究する機会があればいいと思う。
18	29	6	1	①新任研修 ②月2回の研修会	①約20時間 ②月2回(1回=1時間半ほど)	今後、様々な目的を持った学習者が来日すると思われる。その多様化する学習者に対応できるように、研修などあれば、教師もスキルアップできると思う。
19	38	8	1	①新任研修→初級・中級の進め方と模擬授業 ②東京日本語学校研修 ③新任主任研修	①6日間、6時間 ②4日間 ③3日間	・交流会。 ・看護士。介護士受け入れについて。
20	38	10	2	・420hコースの基礎的な講座を履修(100h程度) ・週1回の初級文法講習会 ・教案や授業のチェックを受けた	6ヵ月間	・学習者のニーズを知り、それを教材化したり、授業にいかしていく方法を身につける研修。 ・グループでコミュニケーションをとっていく練習。
21	42	17	2	授業見学3回 教案作成	1ヵ月程度 1ヵ月ほど	
22	63	21	2	新人研修	週5日×1日4時間×3ヵ月(10W)=200時間。	音声を生徒にどう指導していくかについての研修
23	30	4	2	オーストラリア、ヴィクトリア州での日本語教師会の教材(パソコンなどの)講習会	1日	・日本のビジネスマナー、ビジネス日本語 ・教育心理学 最近の学習者が多様化している。
24	29	5	2	・授業見学 ・授業打ち合わせ参加 ・初級勉強会(校長の指導を受ける)全10回 ・教壇実習全4回(うち1回は校長が見学) ・シャドー教案 ・所属機関での教師養成講座基礎課程の受講	約4週間	・他機関への出張見学 ・評価に関する研修 ・複数の先輩教員による研修
25	36	7	1	・日本語教師養成講座420コースの基礎課程を新人教育として受講 ・初級レベル指導法についての勉強会を新人教育として受講 ・校内教師会等で教育の分野に関する勉強会をしている	6ヵ月 約9ヵ月 月1回	一般社会人と同じ。教師だからということはない。 礼儀やマナーなどの研修は学生に対する接し方にかされる。
26	46	5	1	・授業見学 ・教案作成→チェック・指導 ・各種勉強会など	1ヵ月程度、150時間程度	一般的社会常識を身につける。 美しい日本語が話せるようにする。 ビジネス知識を習得する。
27	52	25	1	・初級の教え方、クラス運営、評価の決定方法など ・教材の作成 ・教授法 ・オーラルテスターのインタビューの方法と評価 ・日本の企業に就職する留学生の人材育成	・就職先の新人研修、3ヵ月毎日午前の授業見学と実習 ・国研の夏季研修(複数年度) ・ACTFLオーラルテスター養成 ・AOTS(アジア人財)(複数回)等々	・パソコンや最新の単体機を利用した日本語教育 ・学習者別の教え方 など現職者を対象とした研修
28	40	10	2	文法、教授法を現在所属している機関の考え方に合わせた形式で研修	教授法 週1(90分)×3ヵ月 文法 週1(90分)×6ヵ月	・テキスト(どんだん新しいものが出てきているので)の扱い方を考える。 ・PCやWEBを有効利用した授業方法。
29	32	4	2	A機関→初級6コマ、中級6コマ授業する。教案をつくってみてもらう。その他の日本語学校の業務をする。 B機関→学校が主催している養成講座を受講した。	A→3ヵ月 B→1ヵ月程(週に1日)	・異業種交流会のようなこと。 ・他の業種の方からの話をきいて、今の日本語教育に生かすことを考える研修があればいいと思う。
30	36	11	2	①先輩教師の授業見学 ②教壇実習 ③所属学校の養成講座に出席(基礎部分のみ)	①20時間 ②8時間 ③3ヵ月	・日本人配偶者に対する「生活日本語」をどう教えるか。 ・発音矯正の方法。など
31	40	13	2	・養成講座420時間コースの基礎課程 ・初級の教え方にかんする勉強会 ・教案の提出と添削	・6ヵ月程度 ・3ヵ月程度 ・1ヵ月程度	・複数人によって一つのクラスを教えるといううえで、リーダーシップやコミュニケーション力の向上が必要だと思う。 ・ビジネス日本語に対応するための研修 ・大学や日本語ボランティアをしている方との連携に関する研修
32	40	7	2	中日本地区YMCA日本語教師研修会 午前中は全体で、これからの日本語学校、日本語教師育成に関する講演を聴講 午後後は、分科会、クラス教授や指導方法などについてごまかしくわかれてディスカッション等	1日(終日)	日本語教育に関する現状(国レベル、社会レベル、各機関レベルにおいて)、実際の教育、指導に関する事例、問題点などがやりとりできる場があればいいと思う。
33	29	2	2	・先輩教師の授業を見学。 ・主任教師による授業見学。	約1ヵ月、15時間程度	
34	48	16	1	外部の研修には行ったが校内の研修は記憶にない。	記憶にないほど少ない	
35	36	12	2	指導内容、指導法に関する意見交換、勉強会。	不定期。週1回～月1回程度。1時間半～3・4時間	各国の留・就学生の文化的、経済的背景についての調査。日本に関する知識の程度。日本に関する教育の調査発表など。学生の誤用例に対する意見交換。
36	35	8	1	研修目的:直接法による教授法の習得。	期間:1ヵ月16時間	ニューカマー、在日の方など様々な立場と様々な日本語レベルの方々に対応するためにどうしたらいいか。教師側の意識改革も必要だと思います。
37	25	0.3	2	主任や他の先生方の授業見学。 主任による授業見学を受ける。	6ヵ月間	
38	28	5	2	・選択科目「日本文化」の学生の反応、質問等から教授法の反省と日本文化の演習のよい方法を考察する。 ・「〜もの」の文法的用法を外国語・古語などと比較して考察する。 ・流行語・俗語から現代の若者の心理や時代背景を考察し、日本文化と日本語の傾向を探る。 以上のテーマを毎月ローテーションで発表していく。	毎月1回、1時間半～2時間	実際の日常生活の人間関係に役立つ文法を日本文化や日本人特有の習慣も交えながら、いかにわかりやすく教えるか、その教授法を考察する研修が必要だと思います。
39	57	15	2	大学院(日本語日本文化学科)の科目履修生として、日本語学を中心として言語学、日本文化の基礎について広く学びました。	2年	・音声教育 ・言語習得の心理学的側面について
40	36	9	1	①韓国での日本語学会 ②大学院での日韓の大学日本語教育研修	①年5度(3～4時間) ②年1回2～4日	常に、日本語教育機関と大学機関との合同セミナーや研修をすべきである。また、外国にある教育機関とも何らかの関係を持つべきである。
41	38	12	1	1 学校全体及び各レベルの進め方の説明 2 教案確認 3 その後、その都度質問や確認	1. 1日 2. 2回程度	現在、初任者研修や現職教師のブラッシュアップ研修等を担当している。また、採用時の模擬授業のチェックも行っているが、その際に感じることは、まず、自らがどの程度考えようとしているかということである。すぐに答えを求めてしまう者もいるので、できるだけ考えさせ、そこからどのように教えていけばいいのかがわかるような研修の必要性を感じ、心掛けている。 また、採用の面接の際に感じることは420時間を修了しても、どちらかというとオーディオオンリー色の強い教え方をしている教師も少なくないので、コミュニケーションに教える、学習者に運用力をつける技術を見につけることができるよう育成していくべきである。 さらに、学習者のニーズの多様化に伴い、ビジネス、会話などの研修も強化していく必要がある。
42	28	4	2	教案のチェック、オリエンテーション 授業見学…5日(15時間) 教員勉強会…1日(6時間)		各指導教材の効果的使用法。 初級指導項目の再考。
43	33	8	1	①初任者研修(ひとつめの学校で)、授業見学、教案チェック、日常業務の進め方など。 ②初任者研修(次の学校で)、授業見学、教案チェック、日常業務の進め方など。 ③日協協会の研修会に参加する(学校から派遣される)。時によって内容が異なる。 ④凡人社などの研修会に参加する(個人で)、時によって内容が異なる。 ⑤学校での研修会(主に反省会と授業の見直しを学校全体で部門ごとにする。)	①10日間程度、1日2～4時間程度。 ②1週間程度、1日2～4時間程度。 ③年1回程度、1日4時間程度。 ④年1回程度、1日4時間程度。 ⑤年1回程度、1日3～4時間程度。	

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
44	39	10	1	日本語教育振興協会主催主任研修	2009年6月、3日間	日本語教育以外の分野 学生の心理的ケア・カウンセリング 日本語を媒介とした他科目の教え方等
45	48	2	2	①授業教案チェック ②文型別指導案 ③日本語文法復習 ④実践ビジネス日本語教育講座 ⑤アニメとマンガを生かす ⑥対照言語研究 ⑦中・上級の指導法について	①就職時～2ヵ月 ②週1回、計4時間 ③土曜1日講座7時間 ④夏季集中セミナー、各7時間のワークショップ ⑤夏季集中セミナー、各7時間のワークショップ ⑥夏季集中セミナー、3時間 ⑦3時間	・日能試やBJTなどシステムの変化に伴う指導法や変わった点についての研修。 ・大学進学者、大学院進学者に対する指導法について。 ・漢字圏、非漢字圏の学生の初級における指導法について。
46	33	7	2	・日本語教育から文法を見る…初級文法シラバスを見直す。ワークショップ ・日中対照言語研究	研修期間：1日。時間：約6時間	やはり、教授法をもっと勉強したい。効果的な進め方、時間の取り方など。レアリアなどの使い方についても勉強したいと思う。テキストの比較、研究もしてみたいと思う。 それから、会話テキストの際に適切に会話能力が測れるようになる。研修があればぜひ参加したい。以前、行こうと思ったのだが、まとまった期間・費用がなければ参加できないようなものだったので…
47	48	11	2	①学内…教務主任、学院長による授業見学と指導 ②学期末に教務ミーティングがあり、その際、初～中～上級に分かれてテキストの研究会 ③新任講師が先輩講師の授業を見学し、授業・教室活動を学ぶ ④学外…日振協主催、文化庁主催の研究会	②は定期、他は適宜	
48	24	0.2	2	・授業見学 ・教案の作成	3週間	・ベテラン教師の授業を見学させてもらう。 ・教案の作成 ・模擬授業を数回行って、それをベテラン教師に見てもらい、アドバイスをもらえる研修が充実すれば新人教師でもある程はやっていると。思う。
49		5	2	みんなの日本語教え方講座Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ、6日間 24hぐらい	・専門分野へ入学希望学生への指導法。(大学院、美術及び芸術関係)。 ・新しい日本語指導法(教授法)の研修。 ・日本の小・中・高校の国語教育の教授法。
50	28	1	2	1. 所属機関において勉強会。 ・初級～上級までそれぞれのレベルのクラスに応じた授業について、気になる点や悩みを出し合い、アドバイスをし合ったり、アイデアを出し合ったりする。 ・効果的な授業構成や用いる教材の紹介。 2. 出身大学における日本語教育関係のシンポジウム。 ・国内外の大学に在勤の講師による発表を聞く。一ディスカッション。 3. 他大学における作文指導関連のシンポジウム。 ・具体的なアプローチを紹介・実際にやってみる。	1. 年に3～4回(それぞれ2時間～最長6時間程) 2. (昨年中)1日5時間 3. (昨年中)1日5時間	・日本語力を築いた後(平行して学習する場合)の学習者がそれぞれ習得したい分野別の専門的な日本語の教育方法。 ・一般的な日本語の上級辺りから先を見据えた専門的な内容を混ぜていく。 例、介護・医療。大学進学→文系・理系。日本企業→金融・物流。外交。 日本語教師として各々の専門分野で力をつけられるような研修があれば、より学習者の目的達成にはやく近づけることができると思います。 (考えられる研修内容) ・専門一貫連講義を系統的に。 ・業界の方を講師として招き、教師として全体像を把握。外国人がその場所に身を置いた時のことを考え、どんな指導が必要かを考える材料になる。
51	64	1	3	戸田市日本語ボランティア養成講座 ・動詞の活用 ・接続詞 ・動詞の「は」「が」文法をチェックと話してみる ・可能形を使って日本語をみる ・活動の目的を共有する ・共通言語としてのイラスト使用 ・どうやって発話を促すか	1年間、全5回。 各2時間の計10時間	・学習者のレベル(初級・中級・上級)に応じた指導の進め方。 ・内容の手引き書を作ってもらい、その項目にてできる日本語。
52	39	0.5	3	日本語ボランティア養成講座2010年2日間TIFAにて受講しました。	2時間×2日間=計4時間	ボランティアによる研修について→ボランティア日本語教師としての客観的立場と、それらにならざるものとしてテクニックやガイド等。 文法や文章など、日本で生活する上でのレベル別ガイド (必要過ぎる文法量とレベルは、生活の中で学習者の負担になるので、レベル別に適度なレベルが分かるKPIのようなインジケターがある。現場でのオペレーションにすぐに役立つと思う。在日、日数別、レベル別など…) その他、国際交流などで必要なガイド。 母語としての日本語教育と、そうではない場合の対象者別の学習ガイド。 テープ、本、量、期間など、どの本やテープなどマテリアルが良いか、アドバイスがあると、とても良いです。
53	70	14	3	1. 日本語ボランティア養成講座(戸田市国際交流協会日本語教室主催)14年。 (1)入門、初級講座 (2)スキルアップ講座 外部講師により、入門、初級、スキルアップ、模擬学習などをミックスして開催 2. 日本語ボランティア入門講座(埼玉県国際交流協会、国際交流基金日本語国際センター主催) 初めて日本語ボランティアに取り組む人を対象にした講座	1. 1年に6回開催。3回(土曜日10:00～12:00)+3回(木曜日19:00～21:00) 2. H18年2月～5回(14:00～16:00)	戸田市日本語教室を14年経験して強く感じることは定着する日本語ボランティアが少ない中で外国人の日本語教育が市民の無償ボランティアにかなり依存されていることがあります。 日本語ボランティアの活動が短期間にならないよう日本語の知識習得や学習への対応力(学習の事前準備、学習者から話を引き出す方法、文型学習の仕方等)面で入門やスキルアップの講座を独自に開催(外部講師による)したり、他地域の講座に参加したりして各自が日々努力してきています。 このような環境の中でも、特に日本語が全く話せない(ゼロ)学習者の対応には苦労しております。日本語教育に素人の日本語ボランティアがもう少し自信をもってゼロ学習者をあきらめず入れられるような講座(ゼロ学習者対象の指導講座)の充実強く希望します。
54	59	0.6	3	①教室内ボランティア研修 高柳和子氏を講師とした講演、模擬授業 ②埼玉日本語ネットワーク研修 春原憲一氏を講師とした研修	①2時間×3回 ②1日×2回	考え方、視野の広がる様な内容の研修。 教え方のスキルアップにつながる研修。
55	46	1	3	日本語ボランティア養成講座(所属期間で実施するもの) ・外国人との接し方 ・心構えなど	2時間×6回	日本語文法などテクニカルな内容について必要と思う。
56	46	1	3	日本語ボランティア養成講座 ・ボランティアとしての心構え ・教え方、接し方のポイント ・授業例	2時間、年6回	公開授業など教え方のケーススタディーや具体的なテクニックの学習。
57	52	9	3	①高柳和子先生の入門講座 ②埼玉県日本語ネットワーク講座 春原憲一先生 他	①7年×(1年6回、1回2時間) ②1回5時間×3回	ボランティアの研修について いろいろな市のボランティアの人と研修でお会いすると、まったく研修等に力を入れてなく、ボランティアのスキルアップを努力していない市や地域があったりとボランティアに関しては、ベースがなにもないことを痛感しています。
58	30	0.6	3	養成講座 専門の講師により、日本語教育について、日本語文法について、外国人との共生社会について、また模擬授業への参加	1年に3期あり、各期毎に2時間×2日間の研修	日本語学校等での日本語教育とは若干異なる日本語ボランティア向けの日本語学習についての研修が充実してくるとより良いと思う。
59	33	3	3	日本語ボランティア養成講座 ・日本語ボランティアとは、学校とボランティアの違い ・外国人にわかりやすい伝え方 ・「は」「が」文 ・「可能形」の使い方 ・動詞の「い」について、テキストを分析 ・「ている」を使って文章をつくる ・外国人にとっての日本語 ・模擬授業 すべて、自分の言いたいことを正しい文法で伝えるようなコミュニケーションをとるために日本語文法を使って話すこと。実生活で同じ場面で日本語で伝えることについての日本語ボランティアの研修です。 ②埼玉日本語ネットワーク「にほんごの特色」	①1回90分、年6回、だいたい2日ずつ×3回 ②年3～4回希望者	民間団体がボランティアとして行っている内容が、学習者にとって本当に必要な学習だと思うので、民間団体に任せっぱなしにせず、外国人受入れを奨励している国単位でもっと力を入れて制度を整えることが必要だと感じています。 私は、日本語教師として、今後は日本語学校にも勤めようと考えていますが、日本語学校は現在は、大学進学のための機関となっており、居住して学習者に密着した学習ができる環境は地域ボランティアと機能・目的が完全に分かれたものになっています。 日本語教師に対する大きな研修として、 ・外国人の動向(受け入れ態勢等)、事情 ・地域ボランティアと日本語学校の交流 ・問題を話し合い解決する研修 など各団体だけでは実現の難しい規模で調査しながら行なってほしいと思います。 また、進学のための日本語学校の中で、生活の中でコミュニケーションをとる内容をもっとふやせるような余裕を与え、日本語教師の地位が向上していけるよう、制度を整えていただけると安心して外国人と共存していける日本になるのではと思っています。
60	61	15	3	①初級講座 ②スキルアップ講座 ・日本語教室から見えてくるもの ・日本語ってどんなことば？ ・映像教材の活用について 等	毎年6回(3回にわけて)各2時間 埼玉県内のネットワークが主催している講座 春…1回(4時間～5時間) 秋…1回(4時間～5時間)	・基本文型 ・異文化に対応できる能力を養う ・場面を考え出す方法(どんな場面でも、どのような文型を使うか…)
61	34	7	1	1. 教壇に立つ前に、当校専任講師の授業見学 2. 専任講師による教案の添削、授業の反省会 3. 日本語振興協会主催、日本語学校教育大会への参加	2. 約3ヵ月 3. 1泊2日	看護・介護に携わる外国人が必要となる日本語。
62	62	0.8	2	・特に研修を受けてはいませんが、常勤の先生方の授業見学をすすめられ、見学して参考に なりました。 ・一度、著名な先生(東京)の講演を聞きました。		
63	38	1	2			学修意欲の全くない学生に対する反復練習でのせせりや、活動内容の工夫。
64	44	2	2	(現在所属している機関) ①常勤の上司に初級クラスの教案作成方法・授業の進め方について個別指導を受ける ②授業見学による振り返り ③講師全員による研修会及び外部講師による講演会(単発) (上記以外) NPOや民間による研修会(単発)	①週1回、3ヵ月程度 ②③④不定期	(養成講座では初級クラスの進め方について重点的に学修するので) 中級以降の会話/聴解/活動の進め方について、ブラッシュアップできる研修。
65	63	1.5	3	1. 日本語教育ボランティア養成講座(10時間)～2時間×5日間(週1)(三田市国際交流協会主催) 2. その後、半年に1回づつ教育の仕方補充講座		経験が少ないので特に感じません。(今の教員で十分だと思います)
66	45	2	3	①ボランティア養成講座(外部の講師) ②日本語サロンの先輩ボランティアの方からオリエンテーションとして、当サロンでのボランティアの心得や教え方等の指導等	①②1日2時間×5日程度	・ボランティア講師のスキルアップが必要だと思います。 ・生徒個々のレベルに対応できる応用力を身につけるのは難しいと思っています。 そのためには、ボランティア同志が情報を交換しあって勉強していかなければならないと思います。
67	64	4	3	サンクスの教員による日本語講座。年3回、1回は2時間程度。内容は文法が中心です。	2007年～2010年。年3回、1回は2時間程度。	自分は多少語学力があるので上手に外国人に日本語を教えていると思っている人が多いが、やはり素人です。 沢山の外国人に日本語を教えているプロの話が大切だと思います。非常に役に立っています。
68	30	1	3	所属団体にて集中講座(5日間、指導のポイントやボランティアとしてのこころえ)と3ヵ月に1～2回の講座受講(検定受験者指導方法他)		ボランティア経験のみですが、現場を見ての所感としては実際の学生への接し方よりは基本的な日本語文法の知識や対外国人(非日本語母語話者)への指導用文法の知識不足が否めません。 どこで誰に指導を受けても一貫性のある指導を受けられる環境づくりが今後の日本語教育の課題だと感じています。
69	73	10	3			それなりに研修を受けてきましたが今後定期的に、例えば月1回くらいはしっかりと勉強したいと思っています。
70	62	2	3			世界の日本語教育についての実情を日本語教師自身が把握できるように各国ごとの日本語の学習についての実情をその国の日本語教育関係の人や日本人教師が説明し、問題点を明らかにできるような研修があればと思います。
71	27	1	3			・他の日本語教室を訪問し、授業見学・検討。 ・日本語能力試験受験対策指導。
72	34	3	3			・日本在住外国人をとりまく法制度。 ・研修生の社会的状況、企業内での処遇。 ・EPAによる外国人受入れ、増加に伴い介護現場の現状、基礎的な知識。
73	49	2	3	日本語教師に指導を受けての教案づくり、授業	H21～毎水曜日	継続的な研修(具体的には思いつきませんが)。 ボランティアに対する基礎的な講習。
74	52	0	1			・教育委員会派遣教員と連絡を密にとり、カリキュラム上重複しないようにするにはどうしたらよいか。 ・日本語で会話ができるが、授業までは理解できない。全く話せないなど能力差に応じた日本語指導はどのように行いが効果的か。
75	29	0.7	3			
76	57	11	3			
77	60	6	3			
78	30	0.7	3			
79	57	11	3			
80	67	8	3			
81	73	19	3	日本語指導に関する一般的な基礎、文法、イントネーション等	平成4年、日立日本語学校にて2・3ヵ月、週3日	
82	40	1	3	研修を受けていない		自己の日本語に対する能力を高めた上で、文法重視の研修に参加したい。
83	39	0	3	研修を受けていない		
84	71	5	3	「生活者としての外国人」のための日本語。日本語指導者養成講座。	平成21年9月～平成22年2月、40時間	

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
85	66	3	3	・「生活者としての外国人」のための日本語教育事業。 ・日本語指導者養成講座「みんなの日本語・初級Ⅰ・Ⅱの教え方」。	平成21年9月～平成22年2月、20日×2時間=40時間	日本語の基本的な文法についての知識が欠けていると自覚できたので、それを補強する知識の吸収に役立つものがあれば学びたい。
86	57	5	3	「みんなの日本語・初級Ⅰ・Ⅱの教え方」。	1年間、週に1回、90分 短期講習、5回×90分を3回	・みんなの日本語・中級の教え方。 ・ビジネスマンの為の日本語の教え方。 ・白系ブラジル人の子どもたちに教える日本語。
87	70	4	3	・「生活者としての外国人」のための日本語教育事業。 ・日本語指導者養成講座 「みんなの日本語・初級Ⅰ・Ⅱの教え方」。	平成21年9月～平成22年2月、20日×2時間=40時間	
88	64	2.9	3	①スリーエーネットワーク発行の「みんなの日本語」を基本とした日本語指導者養成講座 ②日本語ボランティア情報交換会(中級の教え方)	①9月3日～2月18日、週1時間、約20時間 ②平成21年9月4日、10:30～15:00、3.5時間	みんなの日本語基礎を教え込む(マスター)事により中級・上級は比較的容易に取り組めると考えるので(Label up)先ずは、初級を徹底しての教育プログラムが肝心と思う。
89	69	7	3	日本語指導者養成講座	2年、20時間	
90	66	5	3	1. みんなの日本語・初級 2. 地域で日本語を学ぶ、教える 3. 日本語で日本語を教える 4. いろいろな日本語教材 5. 中級の教え方①②③ ・話し合ってみよう。 ・情報:読み物 ・情報:資料 ・中級レベルの読解指導	1. 6ヵ月間、週1回 2. 3日間、1回2時間 3. 3日間、1回2時間 4. 3日間、1回2時間 5. 3日間、1回2時間	
91						A. 非漢字圏の学習者に対する手当。 B. 学校へのモチベーションを高める方策。 ・Ex. テーマを設定して外部の日本人を招いての懇談会etc。 C. 互いの授業見学が、もう少しフランクにできるような考え方を考えていく。 ・見学=評価にならないような雰囲気。でたてづくり。 ・基本方針はあるものの個々の多様性を認める。 D. 日本語教育セミナーや他校との情報交換に参加したら、それが共有財産になっていくような仕組みをつくる。
92	23	1	2	①事前研修(模擬授業・それに対する指導及び同僚との議論) ②定期的な授業見学(個人指導(反省・改善点などの教授)(日本語教育経験者による)) ③他校講師による模擬授業見学	①約1ヵ月、15時間 ②50分授業を総数6回見学、その後の指導時間は各2～3時間 ③約2時間	・経験者による直接指導。 ・他講師の授業の見学。 ・又、特に大きな研修ではなくとも、日頃職場の同僚と意見を交わすことが大切になると思われる。
93	25	2	2	他の先生の模擬授業を数回見学し、その後実際に初級の教科書を使って模擬授業を行った。そのあと、先生方にアドバイスや改善点を指摘いただき、初めての研修を終えた。それ以降、実際のクラスで授業をしているところを先生に見ていただき、さらにアドバイスをいただく。また、別の研修では、50分の模擬授業をしていただき学生役として見せていただいたりした。	・初回研修、5時間×3日 ・先生に自分の授業を見ていただく研修、50分×2回 ・先生による模擬授業、50分×1回	・いろいろな先生との情報共有をする機会。 ・学習意欲のない学生に向けての対応 ・発話をできるだけ多くさせる技術 など、より実践的な部分で一人ひとりの先生方がどのような工夫をされているのか。知れたら自分の授業の質の向上・改善につなげられるのではと考えています。
94	31	10	1	実際の授業を研修担当の方に見ていただき、授業後に反省・改善点を話し合い、次回からの授業に生かしていく。企画書、報告書に詳細を記入し事務局に提出した。	50分授業を研修担当が見学。後で30分程度の話し合いを行った。(年1～2回)	日本語の理論だけではなく、いかに実際の教育現場で対応できるかということを見学したり書き取りできる研修が必要ではないかと思えます。
95	31	7	1	・使用テキストを用いた模擬授業 ・先輩の授業の見学 ・教材・教具の使い方	・1ヵ月くらい ・週2・3時間くらい	・模擬授業とそのフィードバック ・テストの作り方 ・学生指導の方法
96	38	13	1	初任者研修 ・クラス授業を行う前に模擬授業を他教師の前でし意見をもらう。 ・基本的な文法項目の確認などを担当者と行う。 現職研修 ・お互いに授業見学に行き意見を交換する。 ・講師に来ていただき模擬授業をしていただき皆で話し合う。	初任者研修…10時間程度 現職研修…授業見学などは随時	・教科書を変更した際、また新しい教材を使う際、進め方、使い方など意思統一を行なうため研修をしたほうが良いと思う。 ・似通った文法項目(教えない文法項目など)。 ・学習者の誤りが多い項目。
97	39	1.5	2	「みんなの日本語」に基づいて、導入・練習のやり方を講師の先生が実施。 指導のポイントなどの解説。意見交換。	1日2時間と1日3時間の研修を1回ずつ	・いろいろなパターンでの授業のやり方を指導してもらえる研修。 ・四技能別のモデル授業の研修。 ・学習者の積極性を引き出す方法が学べる研修。 ・ワークショップタイプの研修。
98	41	4	2	①外部講師による模擬授業の見学(「みんなの日本語」の文型導入と練習)見学後、質疑応答と参加者で感想や意見を述べた。 ②採用時、模擬授業を行った。採用後、授業に入るまでの間、「みんなの日本語」の学習項目を教えるで分担し、導入のやり方、練習方法などについて発表し、研修担当の先生からフィードバックを受けた。 ③研修担当の先生による授業見学、実際の授業を行っているところを見学してもらい内容についてフィードバックを受けた。	①2時間程度 ②2～3週間程度 ③3ヵ月～半年ごとに1回、50分程度見学。フィードバック20～30分程度	①定期的な外部の方の模擬授業を見学したり、他の先生方の実際の授業を見学してアイデアを学ぶ。 ②自分の授業をビデオ撮影し客観的に分析してみる。 ③クラスで抱えている問題や事情をうまく授業について担当の教師どうしてワークショップをする。
99	48	5	2	・研修担当の先生が1時間授業を見学し、その後授業についての反省、改善点を話し合う。	年に1～2回、授業見学1時間、授業についての話し合い～2時間	・学習者の背景について(国情、歴史、習慣など) ・就学期(特に中学生になった年齢の学生)に、日本へ来た子供たちが日本の高校受験に間に合うような日本語の効率的な教え方。
100	50	5	1	①事前研修(文法解説、授業の組み立て、進め方など全般的な研修) ②授業見学(他の先生の授業を見学していただくからフィードバック) ③授業の反省(授業を見学していただいたからのフィードバック) ④研修会(大学講師の方の授業全般についての研修)	①採用後、実際に授業を行うまでの1ヵ月間、4時間×5日×4週 ②1コマ50分×5～6回 ③1コマ50分×5～6回 ④授業終了後、3時間×1回	・意欲のない学生への指導法。 ・意欲のない学生を授業に取り込んでいく技術。
101	50	12	2	初級クラスの指導方法 文法重要項目の教え方	1週間、1日4時間	授業の中におけるメディア・リテラシーの活用。
102	42	13	2			
103	27	3	2			・教材研究 ・評価法、テスト法とその分析 ・教師自身の内省、アクションリサーチ、自己実現法
104	62	8	2			
105	34	2	2			みんなの日本語本冊、文法書、読解トピック、聴解タスク、それぞれについての活用法が必要だと思います。養成講座では本冊を使った実習がほとんどだと思うので、もちろん、いろいろな教材やグループワークの参考書なども、はじめはなかなか使い方がわからないので研修があることがのぞましいです。また、まったく違う面ですが、教室の運営の仕方、生活態度を含む学生の指導法なども研修が必要だと思います。
106	45	9	1	財団法人 日本語教育振興協会の日本語学校教育研究大会(平成19年度)に参加 「世界の言語教育の潮流と日本語学校の未来」というテーマに関する講演やディスカッション、研究発表といった内容	平成19年8月8日～9日(計10時間程度)	目的、最新の映像機器やメディアを使った授業についての研修。たまたま、中・上級クラスの授業で、1つのテーマについて自分の意見をまとめて図式化し、プロジェクトを使って発表させるという形の授業をしたところ、学生の積極性が増した。大学などで学ぶようになっていっている形態であると思われるが、こうしたものを使って効果的な日本語の授業を行うための技術がみられるような研修があればいいと思った。内容:映像機器をうまく利用して効果的な授業を行なっている学校の事例の紹介、モデル授業など。期間、時間:2日間(理論(映像機器の使い方、活用の仕方など)／実践(実際に模擬授業をしてみるなど)という形で)。
107	37	7	1			・レベル(学習段階)別で、さらに技能別の教授法。 ・留学生や生活者としての外国人に関する法律的な知識。 ・生活者としての外国人、就労状況の現状について知り、学ぶ研修 ・学習者が自ら学ぶ日本語教室の具体的な進め方
108	65	14	2	日本語センターでの研修 ・授業について(年3回ほど、各2時間) ・各国の事情など 県・市の国際交流協会 国・県立大学での一般的な研修(計84時間以上)	・授業について:年6時間ほど、60時間 ・各国の事情など:年2時間ほど、3～4回、6時間 交流協会:3回、6時間 大学:年2回、12時間	
109	52	6	2	①多文化共生ボランティア入門講座(静岡市国際交流協会) ・日本国内の日本語学習者の実態、日本語の教え方 ②中国帰国者センターの研修 ・中国帰国者(本人・二世、三世に実体)スクーリングの方法など ③日本語教師養成講座(420時間) ・日本語全般の知識、教授法、実習など	①平成16年10月～平成17年3月(月2回、1回2.5時間) ②平成17年～平成18年(不定期、合計20時間) ③平成19年4月～平成20年3月(420時間)	学習者のニーズについて。 コミュニケーション戦略の教え方。 新しい教材の紹介と使い方のモデルなど。
110	43	6	2	「日本語のしくみ」について(静岡大学公開講座)	1ヵ月に2回で3ヵ月計6回、3時間。	
111	57	3	3	ブラッシュアップ研修 ・自動詞、他動詞etc教えていく上でむずかしい箇所をあらかじめ提示し、その授業を実際に行ってもらい、その後質疑応答	ブラッシュアップ研修 2時間×3回(2008年2月～3月、2009年2月～3月)	日本語学校の生徒や留学生の実態などを話してもらい彼らが何を求めているのか、理解ある上で参考にしたい。各現場で実際に困っている点などを話しあい実践に基づく研修をする。講師に先生役をしてもらい学習者の立場になって授業を受ける研修。
112	62	12	3	①1～2年に1度、ブラッシュアップ研修 ・終助詞の使い方、助詞の種類と分型と助詞 ・授業の組み立て方 ・会話指導のPOINTなど ②地域ボランティア日本語指導者研究会 ・話す力、授業の質を上げる ③横浜日本語教育フォーラム、セミナー	①大体1時間半/回で3～5回。時として1時間/回で10回。 ②2時間、6回、随時 ③2時間、1回、随時	ボランティア教室において、初級者用のテキストは沢山あるが、初上・中・および読解をする時に必要なテキストが少なく、試行錯誤している。要望はかなりあるので、必要と思われます。特に、1回で修了できるテキスト、ボランティア教室は継続して長く続ける学習者が少ないので。
113	69	18	3	①ボランティアとしての初級Ⅰ内容 ②ボランティアとしての初級Ⅱ内容 ③読解及び上級 ④文法学習	①1講座、10時間程度を7回 ②1講座、10時間程度を5回 ③1講座、5時間程度を2回 ④1講座、10時間程度を2回	①学習としての日本語能力向上を旨とする外国人への対応。 ②定住外国人及び在住外国人などが生活のために必要とする学習と二様のわかれている気がする。今、ボランティアの中では混在して活動しづらい。それぞれに応じた研修内容が必要だと思う。 ①の内容については、きちんと文法を基礎とした学校教育的なもの。 ②の内容としては、生活用語、習慣など日常的にかかわってくる生活感のある内容の活字及び読み書きの指導が必要。それらの研修及び指導法が必要。
114	40	1	3	文法、歴史等の知識 初級・中級の指導方法、実技 少人数(1.3)会話クラス実習	日本語教師養成講座、420時間	・レベル差のあるクラスの進め方、対応の仕方 ・漢字圏と非漢字圏の学習者に対しての接し方や指導方法 ・教案作成
115	69	7	3	1. アルク社通信講座 2. ボランティアブラッシュアップ講座(2回)	1. 6ヵ月、通算50時間 2. 通算10時間	①レベルのばらつきのある学習者を同時に同一クラスで教えねばならない場合の教え方。 ②実際のクラスでの諸トラブルケース毎の実践的トラブルシューティングについて
116	70	5	3	1授業に対して約1日勉強します。週に1日そのために使います。		
117	47	0.5	3			最新の日本語教育事情
118	86	15	3	日本語教育の基礎～応用、一通り	500時間位	文法も必要との認識を。
119	66	4	3	1. 海外の日本語学校、勤務先 ①みんなの日本語ⅠとⅡ一重要点の解説と指導方法(全課において細かく) ②新宿日本語学校(新宿方式)の指導方法→解説と指導方法 2. ブラッシュアップ講座(日本語がほとんど分からない外国人の方にわかりやすく効率よく日本語を教える) 3. ブラッシュアップ講座(日本語ボランティアの指導方法)	①不定期に実施、3ヵ月間 ②不定期に実施、3～6ヵ月間 2. 9月10日～10月22日、全6回、各2時間×6=12時間 3. 7～8月、全5回、各2.5時間×5=12.5時間	日本語ボランティアとして、求められている役割を果たしたいです。そのために下記のような事項を知りたいです。 1. 日本語ボランティアに向けての文化庁のキャリアアップ。 2. 生活者としての外国人に対する日本語教育実践報告(委嘱報告等)。 3. 生活日本語とは?
120	50	5	3	ブラッシュアップ講座 日本語教育における日本語文法 絵教材を使った実践導入	計、約30時間	共通語を介さない直接法としての初級者向け学習方法 助詞の使い分け 文法導入
121	50	2	3	①Yoke授業見学→Yokeの日本語教室の授業を見学する。 ②日本語ボランティアのためのブラッシュアップ講座→「おしゃべり型」日本語交流活動について/授業の進め方について/教材について/地域の日本語教室の紹介など ③Yoke日本語サポーター内部研修ブラッシュアップ講座 ・学習項目の分析方法 ・模擬授業の見学など	①1時間30分 ②2時間30分×5回 ③2時間	・「文字を読める」「書ける」「話せる」という3つの要素を、どのようにバランスをとって教えていけばいいのか。また、漢字の導入は、どのレベルで始めればいいのか、といった内容の研修があれば受けたいと思います。 ・色々なスタイルの教授法を紹介してほしいと思います。自分の授業計画を立てる時に、とても刺激になり良いアイデアがうかびます。
122	63	3	3	1. 中区ブラッシュアップ養成基礎講座 2. RKKブラッシュアップ講座 3. 平成22年度港南国際交流ラウンジ「日本語ボランティア入門養成講座」 4. なか国際ラウンジ、日本語ボランティア・ブラッシュアップ講座 5. ブラッシュアップ講座「対話的」に日本語学習支援を進めるために 6. 学習支援ボランティア入門講座「外国籍の子どもたちの「学び」をどう支えるか」 7. 第2回全養勤公開講座in東京	2. 2010年3月27日 3. 2009年4月～7月 5. 2010年8月 6. 2010年6月30日 7. 2010年11月27日 約50時間	1. 就学児童、学年にあった内容、教え方 2. 成人ニューカマーに対する学習内容 3. 学習内容、教え方の一定の統一 最近では、生活にすぐ役立つ日本語、使える日本語ということで会話を中心に進められていると思う。とても良いと思うが、文法、用法をどのように伝えられるかということも、公開学習、研修の場があると教える側にとって有意義になると思う。

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
123	69	5	3	ブラッシュアップ講座	10時間程度	研修内容よりも、研修体制が問題。 行政が民間ボランティアに押付けている現状では、不幸な外国人が救われないまま放置され続けるだろう。 行政自身の仕事として考える必要がある。 アンケートなど、とっているヒマがあったら仕事をしろと云いたい。
124	69	1	3	1. 日本語ボランティア入門講座 2. 「やさしい日本語」をマスターしよう 3. 緊急時に必要な日本語を伝える	1. 12時間 2. 8時間 3. 8時間	1. 実質的な日本語の教え方。 2. 来日外国人の母国の実状。
125	52	2	3	1. 日本語ボランティア入門講座 2. 「やさしい日本語」をマスターしよう	1. 12時間 2. 8時間	・相手の国の文化(言葉、習慣の違い)を習う。 ・外国の方といっしょに交通機関を利用して出掛ける。 ・世界のニュースを知る(現在起きていること)。 ・料理講習。 ・生活の基本(ゴミ袋、そうじ等)の講習。
126	54	3	3	1. にほんごぼらんちやにゆうもんこうざ 2. やさしいにほんごをますたしよう	1. 12時間 2. 8時間	・くにのぶんかをおしえてもらう。 ・せかいのニュースをしる。 ・せいかつときほん。
127	39	3	3	1. 日本語ボランティア入門講座 2. やさしい日本語 3. 災害時における日本語の実践的研修 4. ステップアップ研修	1. 平成20年12月～平成21年1月、12時間 2. 平成19年～4時間 3. 平成22年5月～平成22年11月、10時間 4. ひまわり21、6時間	・実際に外国人と話す時には、本で習った言葉を使わないこともあるので、相手のニーズを知って、何が必要かを考えるようなプログラム。 ・災害時、避難場所など地域住民と外国籍市民が協力し合わなければならない時の実践的な練習(避難訓練)。 ・多文化共生社会を目指すまちづくり。
128	70	4	3	①呉市主催の日本語ボランティア入門コース ②実践教育の研修(「ひまわり21」(所属ボランティア団体名)内のステップアップ研修)	①本ボランティアに関わる前に6週間×2時間=12時間 本ボランティアに関わってから10時間/年程度	1. 学習者にとって「居心地のよい場所」を提供することを目標としているので、真心のこもった対応を心掛けている…質問に対する答えになっていないが…。 2. やさしい言葉、短い文章を心掛けているが、そのことを助けられる教育。 3. しやべれなくても、聞いて理解できたらよい日本語。例えば、「危い！」と言われた時にすばやく対応できるような教育に必要な研修。 4. 病院に行った時に医師に説明できる日本語。
129	71	6	3	1. 日本語ボランティア入門講座(市) 2. 日本語教室ステップアップ講座 3. ボランティアを対象とした実践的研修	1. 14時間 2. 5時間/日×3回/年 3. 15時間	現在の内容の拡大、掘下げ。
130	63	7	3	1. 日本語ボランティア入門講座 2. ひまわり21のステップアップ研修	1. 14時間 2. 年間10時間程度	外国人学習者が本当に必要としている言葉を知って頂くことの出来る研修。 (やさしい日本語、キケンを知らせる言葉など)
131	60	15	3	1. 日本語ボランティア入門講座 2. HIC各種講座 3. ひまわり21ステップアップ講座	1. 12時間 2. 70時間(単発) 3. 10時間	1. 母国語と日本語との関係。 2. 初期の日本語の教え方、接し方。 3. 働く人にとっての必要な日本語。 4. 外国の事情(その国の人の背景を知る為に)。
132	60	19	2	①NAFL日本語教師養成通信講座受講 ②呉市日本語指導ボランティア養成講座受講 ③HIC(ひろしま国際センター)主催日本語指導ボランティア講習会参加	①1997年9月～1998年6月 ②1993年広島大学経理学(当時助教授)を初回として、複数受講 ③1998年頃から複数回参加	・長年の経験を通して考えると、今、目の前に座している学習者1人1人のニーズに即したカリキュラムを作ることが必要だと思います。教材やノウハウは書店に溢れており、その中からも見つけることができます。 ・これから必要だと思う研修として、実際に行われている教室の様子を見学し、そこでボランティアの方や学習者の方からの気持ちを知ることが一番役に立つような気がします。 ・また、学習者と接する際に、相手の国のあいさつ程度は使っていたので、簡単な言葉や文化、国の様子の研修があれば嬉しいと思います。
133	45	13	1	①新人研修、ビジネスマナー等 ②校内勉強会、教授法と教師のあり方について ③日本語学校、教育研究大会 ④日本語教育学会主催セミナー ⑤その他、各種学校主催のセミナー	①3日間 ②3時間×2回 ③2日間 ④1日 ⑤複数回	・コンピューターや様々なメディアを活用する方法などのスキルアップ研修。 ※1日～2日間程度の単発研修。 ・教授法に関する最新研究の実践例について。 ※1週間程度のスパンで合宿形式のタイプ。 ・教師自身の成長のための心理学的な考察。 ※半年くらいの時間の中で自己を見つめていく。通信制のような形とスクーリングを組み合わせてもよいかと思う。
134	67	30	①	学内:①新人研修、教員としての基本的事項の研修 ②校内勉強会、教授法、教室活動のについての研修 学外:③日本語学校教育研究大会、日本語教育業界全般 ④日本語教育学会主催セミナー、研究会 ⑤ながめま夏夏季集中セミナー	①3日間 ②3時間×2回/年 ③2日間 ④1～3日間 ⑤1回/年	
135	57	10	1	学内:①2等級研修、教員としての基本的事項の研修 ②校内勉強会、教授法、教室活動のについての研修 学外:③日本語学校教育研究大会、日本語教育業界全般 ④ながめま夏夏季集中セミナー、教授法、教室活動のについての研修	①3日間 ②3時間×2回/年 ③2日間 ④1回/年	
136	43	7	1	①新人研修。 ②2等級研修、教師としての基本的事項に関する研修 ③日本語学校教育研究大会、日本語教育業界の諸問題に関するもの。 ④日本語教育学会主催のセミナー、研究会。日本語教育業界の諸問題に関するもの。 ⑤学内勉強会、教授法、教室活動のについての研修	①3日間 ②3時間 ③2日間 ④3時間×2回/年	
137	46	10	1	①新人研修、教員としての基本的事項、教養及び授業研修 ②学内勉強会、教授法、can do!について他 ③ながめまスクール夏季セミナー、日中比較/ビジネス日本語	①1週間 ②2時間×2回/年 ③1日 ④1回/年	
138	36	10	1	学内:①新人研修。 ②2等級研修、教員としての基本的事項の研修 ③学内勉強会、教授法、教室活動のについての研修 学外:④日本語学校教育研究大会、日本語教育業界全般 ⑤ながめま夏夏季集中セミナー、教授法、教室活動のについての研修	①3日間 ②3時間 ③3時間×1回/年 ④2日間 ⑤1日/年	学生のメンタルの面のケアについての研修。
139	35	5	1	学内:①新人研修、教員としての基本的事項の研修 ②勉強会、教授法、教室活動のについての研修 学外:③日本語学校教育研究大会、日本語教育業界全般 ④ながめま夏夏季集中セミナー、教授法、教室活動のについての研修	①3日間 ②3時間×2回/年 ③1日 ④1日/年	
140	73	7	3	1. 日本語教育の現状 2. 日本語の基礎(新日本語の基礎1) 3. 日本語の文法 4. 共に学ぶ地域の日本語教室(生活支援のための日本語) 5. 授業の組立て方等 (1)学習者との共有語、語彙、文型、組合せ (2)日本語におけるコミュニケーション (3)生活者のための日本語 6. リソース、生教材の使い方、生かし方	1. 日本語教師養成講座(入門):県・ASALT、平成8年6月～7月、30時間 2. 日本語ボランティア養成講座(基コース):SAGA、平成20年11月～12月、12.5時間、SAGA、平成21年11月～12月、12.5時間、SAGA、平成22年11月20日、4.5時間 3. 日本語ボランティアスキルアップ講座:SAGA、平成22年3月、4.5時間 4. にほんごの部屋スタッフ研修会:SAGA、平成22年1月、2時間、SAGA、平成22年4月、4時間、SAGA、平成22年7月、2時間 5. 日本語ボランティア講座:SIA、平成23年1月14日、3.5時間。	1. 各国の日本語事情の実態。 (1)最近における日本語学習の目的(就学、就職、日本文化、交流等)。 (2)各国の日本語教育機関の現状(公、私)。 (3)日本語能力試験の実状。 (4)各国の日本語教師の活動状況。 2. 学習者が知りたがっている日本の社会システム。
141	48	0.1	3	日本語講師の方からの体験談や助詞の使い方など 実際に教えている場所での見学	半年間	日本語教師の方の講演会(体験談等)
142	54	20	3	①日本語ボランティア養成講座(中級) ②日本語ボランティア養成講座(リソース型) ③日本語ボランティア養成講座(子ども対象) ④日本語ボランティア養成講座(中級-文法を教える)	①2週間、8時間 ②3回、2時間×3 ③1回、2時間+ワークショップ ④4回、3時間×3	・評価 ・過程設計 ・文化(文化摩擦防止)
143	58	2	3	①子どもへの日本語教育について ②ブラッシュアップ講座 ・文法導入、外国人(中国)から見た日本	①10月8日、2時間 ②11月20日、6時間	・現場で働く先生方の具体例をとりあげての講義を聞きたい。 ・特に子どもへの日本語教育をするうえで、学校以外の環境(家庭)を知ることが、ダブルリミテッドの子どもを増やさないために必要だと聞いた。 母国の文化、慣習や事情などを事前に学ぶ準備から知りたい。
144	70	3	3	ハーティー-港南台日本語支援講座。2007～2008年、10回、各25時間 ・学習者の視点に立った学びやすいレッスン、サポートテキストに沿った実践レポート ハーティー-港南台日本語ボランティア講座。2010年、計5回、各2時間15分 日本語ボランティア研修講座 ・「みんなの日本語初級」8、12、16課 形容詞でより豊かな表現を。2008年7月、2.5時間 ・初級から中級レベルの指導法。2009年12月、2.5時間。 「みんなの日本語中級I」を使って、より複雑な会話、まとまりある文章力	コーディネーターやアドバイザーの役目。	
145	55	6	3	①「みんなの日本語初級I」文法知識の整理及び各課指導法 ②「みんなの日本語初級II」 ③「みんなの日本語初級II」形容詞、練習Cの導入法と練習の仕方 ④「みんなの日本語中級」使い方 ⑤学習者を知る-ニーズとレベルを把握 ⑥初級の教え方。ゼロスタートの学習者に初めて教える時、「動詞のグループ分けと乙形」 ⑦初級文法の理解 ⑧対話活動の理解	①2005年4月～2006年7月、15回、30時間 ②2007年5月～2008年7月 ③1回、2時間 ④1回、2時間 ⑤2009年1月、1回、2時間 ⑥2009年2月、1回、2時間 ⑦2009年5月～2010年5月、10回、20時間 ⑧2010年10月～2010年12月、5回、10時間	・ボランティア活動ということもあり、日本語文法・教授法等、活動開始と同時に勉強される方が多数いらっしゃいます。指導するにあたり文法理解、導入、練習の仕方は不可欠なので、常に新しいボランティアを迎える為にも、また既存のボランティアのレベルアップの為に上記研修が定期的に必要だと思います。 ・文法重視の指導から対話活動中心の指導に移行していく為の対話活動の内容の理解、授業の進め方、初期指導の方法等の研修。
146	70	10	3	ボランティア活動であり就職ではありません。研修は自発的に受けたものであり、所属機関によって準備されたものではありません。 ①外国人と地域をつなぐ日本語コーディネーター養成講座 ②日本語ボランティア講座「対話活動を中心に」	①90分×2コマ×14回=42時間(2008年8月21日～11月20日) ②120分×5=10時間(2010年10月7日～12月2日)	①簡略化された日本語文型(文法)。 ②標準的なカリキュラム案に基づく対話活動。
147	69	4	3	①「みんなの日本語」を使っての実際の授業の進め方等 ②「生活者としての外国人に対する日本語指導」等 ③文化庁の講演等 ④現在所属している所の文法講座等	約30時間程度	授業の運び方、教えた言葉を実際にとんとん使えるようにする授業方法。
148	79	5	3	日本語ボランティア養成講座 「みんなの日本語」初級IIをベースに文型積上げ方式で1課から、順に目標。学習演目、語彙、授業の手順、教具教材を考え、準備する。 授業を作成する。 必要に応じて文法事項も組み込んで、理解してもらう。 ドリルも復習をかねて、組み込む。 学習者の進度によっては、コミュニケーション活動として現実に近い状況で会話をします。	①2005年より10か月、週1回、研修(1回2時間又は3時間) ②2008年より1年、週1回(1回2時間) ③年に数回、質問形式の講座を開催、受講 ④単発的ボランティア講座、受講、5年間で10回 ⑤対話学習活動講座、2009年10月より5回	従来の文型積上げ方式から対話活動を中心に指導する時の問題点を羅列し、研修必要項目とします。 ①ゼロビギナーへの対応 ②今使っている、みんなの日本語を活用できないか？ ③場面の会話を重視した時、語彙、文型、学習項目があまりに、多くなってボランティアの資力が問われる。 ④学習者のニーズを的確に理解できるのか？ ⑤要求を話せる学習者はかなり日本語能力が高いので、そこにいたるまで、どのように指導すればよいのか？ ⑥目標を定めた対話の構成には、ボランティアの準備の負担が大きい。世間はなしに終わらせたいために。 ⑦文法指導。ひらがな、カタカナ、漢字について。
149	32	8	1	①日振協 新任主任研修 ②日本語教師・指導者のための「ITを活用した日本語指導能力向上研修」(国研) ③日振協 実践研究 ④教え方(初・中・上級)評価法 ⑤教え方(中上級) ⑥CDS ⑦ビジネス日本語 ⑧新しいLPT ⑨評価法	①3日間 ②2日間 ③半年 ④3か月 ⑤3か月 ⑥4時間 ⑦2日間 ⑧4時間 ⑨3時間	・e-learning やオンラインブレイクテスト作成のための研修。 ・専門分野での日本語教育(+ビジネス)。 ex)半導体、IT、旅館、介護、航空、芸能界。 ・宗教的理解(特にイスラム)。 ・子どもへの日本語教育。 ・あらためて、OPI-テスト資格までではないが、しっかり継続的に勉強したいという人の学びの場があれば。 ・対学習者へのカウンセリング ・論文指導 ・学校経営 ・経理
150	29	0.2	2	講師研修:①模擬授業での反省・改善(授業の再検討など) 講師研修:②「みんなの日本語I」中級から学ぶ日本語の教科書分析 ③授業見学→①～③毎回レポートを提出(研修内容、学んだことなどを書きました。) ※その他、成績会議などにも参加し勉強しました。	研修期間(①～③全部で6回) ①3時間、1回 ②3時間、1回 ③30分、4回 ※採用から授業スタートまで約1か月半ありました。その間に、これらの研修を行いました。	・教科書分析。 各内容の「特徴」「目的」「練習方法」などを話し合う。 ・先輩先生方の授業見学。
151	40	1.8	2	みんなの日本語-授業の進め方 中級から学ぶ日本語-本文の進め方	1時間×3、4回	・学生は苦手とする文型の指導方法について。 Ex「ように」VS「ために」 意志V VS 無意志V ・発音指導。 ・作文指導(初級→中級→上級と長期的な計画や指導方法・進め方など)。 ・レリアを使った授業。
152	31	8.5	1	日振協新任主任教員研修	3日間	・多様なクラス形態に対応できるスキルを見付けるための研修。 ・学生のメンタルの変化に対応できるようにするための研修。

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答) ※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
153	62	2	2	①新任研修 担当:主任講師 ・カリキュラム等の説明、テキスト分析、模擬授業のフィードバック ②講座「教師の役割ー学習者のために教師ができること・すべきこと」講師:佐賀大学 横溝紳一郎 ・評価(テスト)の工夫、フィードバックの工夫、多様性への配慮、クラスルーム運営の工夫、教材の選定と工夫、相手理解・自己表現の場の提供	①平成21年3月7日、4時間 ②平成22年3月20日、1時間半	限られた時間で学習者が必要な使える日本語を身につけることができる授業をするために必要な技能と、その向上に係るすべての事項。
154	24	3	2	初級の教え方、教科書分析などについて	約2ヵ月、週1回、4時間	学習者・目的も多様化しているので、文法重視ではなく内容重視の日本語教育に焦点をあてた研修。大学予備教育としての日本語教育はどうあるべきかなどを考える内容の研修があるといいと思う。
155	39	10	2	・学内でのクラス別・レベル別の勉強会 ・講演会やワークショップへの参加(民間)	・学内(1~2回/月) ・学外(年1回程度又はそれ以下)	
156	36	10	2	1 初級レベルの小テストの作成について 2 初級文型の会話練習	1. 6ヵ月、10時間 2. 2時間	・遠話(中上級レベル、JLPT対策会)の指導法 ・シャドーイング(会話)の練習指導法
157	26	0.6	2	学期の途中で入ったので「研修」という名目ではありませんでしたが、他の先生の授業を見学させていただいたり、授業の添削をしていただきました。	1~2ヵ月	・新人研修(初めて日本語を教える人のための研修) ・授業見学(クラス別、初・中・上) ・テキストの使い方など
158	30	1.5	2	教授法に関する勉強会	①勤務地において、2~3ヵ月に1度程度。毎回1時間程度 ②又、就職決定後から勤務開始の間、事前研修として3回程研修を受けました	教授法に関する研修以外にも、現在どのような日本語教育が必要かや新しい教授法等の最新情報が得られるといいと思います。又、対照言語学的な知識が得られる研修なども必要性を感じます。
159	37	8	2	①「中級から学ぶ日本語」を使っての効果的授業Ⅱ ②各種講演会(大学教授、他機関専任講師による)ワークショップ	①2001年1月13日~4月7日(1,050分) ②それぞれ2時間程度	・クラスマネジメントの一環として(他国における学習環境・状況) 日本の勉強の仕方をそのまま他国の学習者に要求するのは、日本語学習の効果が薄くなるように思います。(特に西洋の学習者において教える側も彼らが今までのような学習の仕方をしてきたのかも、と知る必要があるように思います。)
160	37	10	1	・具体的な教授法の研修「みんなの日本語」…著者による教材に基づいた実践的な教授法の研修やワークショップ(メキシコ)	いずれも終日	・最新の教授法研究に基づいた研修。目的:既存の教授法ではなく、最新の教授法を知ることにより、教師の能力向上を図り、レベルを上げる。内容:分野別に教授法及び教材、教具の実践的利用方法。期間:終日(一分野につき)数日に分散するのは職務上参加しにくい(ため) ※販売書籍を使った宣伝的なものが多く、取り組みやすい方、目新しさが無い。
161	35	10	1	(研修目的) ①論理的な文章作成能力育成 ②生活指導担当者研修 ③主任者研修 (研修内容) ①作文授業の組み立て、授業に関するディスカッション ②留学生の受け入れ状況、在籍管理 ③主任者としての心得、コースデザイン、他校の先生方との交流、意見交換	①4時間 ②3時間 ③3日間	・今後の日本語教育の展望、受け入れ状況。 ・就職支援。
162	31	7	1	・全業教フォーラム ・進学指導講習会 ・能力試験の改訂説明会 ・留学試験の改訂説明会 ・効果的な発音指導発表会 ・日本語教育会の動向 ・留学→留学ビザ変更に伴う注意事項 ・初級発音指導の具体的な指導講習会 ・韓国・マレーシア・ベトナム・中国の事情研修会(各国別) ・新刊刊行時の説明会 ①教案指導 ②校内勉強会(教科書研究・文法など) ③初級・中級・上級教案指導講座 ・サジェストベディア研究会 ④みんなの日本語Ⅱ教える講座	各3~4時間程度 ①3ヵ月間 ②1ヵ月間 ③各級、3時間×10回程度 ④6時間×3日	・カウンセリングについての研修。 ・学生の変化、国の事情変化を先取りした研修(これからどうなるか、など) ・PCを利用した書き取りや発音の自宅練習指導の方法。 ・読解指導法 ・作文指導法
163	66	5	2	内部での研修:①漢字教育(教科書改訂に向けて) ②留学試験対策、能力試験対策、試験内容変更の詳細と対策 ③文法教育(教え方の意見交換と発表など) ④読解教育(教え方、内容の勉強会) ⑤就学ビザ、留学ビザなど 外部:(セミナー)音声教育(発音の教育、直し方など)	いずれも2~3時間/回 外部のものは土曜日午後	・発音矯正のテクニック。 ・初級教授法。 ・比較言語学の視点からの誤りやすい文法上の問題点と、その教授法(具体的に言えば、中国系学生が陥りやすい文法の誤りをどうおさか)
164	36	4	1	・全業教フォーラム ・進学指導講習会 ・新JLPT勉強会 ・新EJU勉強会 ・発音指導講習会 ・日本語教育会の動向 ・留学→留学ビザ変更に伴う注意事項 ・韓国・中国・マレーシア・ベトナムの事情研修会	各3~4時間	・各国における日本語教育の現状。 ・留学生たちが日本語学校に求めるもの、日本(語)に期待していること。 ・専門学校や大学(院)に進学した学生の卒業後の進路、日本語との関わり合い。 ・読解力、作文力の向上について(※中国学生)
165	32	3	2	①趣向・凡人社にて、新教材のメリットと従来の物との比較について ②所属学校内での常勤、非常勤合同の勉強会(自・他動詞について) ③所属学校内での留学試験、能力試験に関する基本情報	①2、3時間 ②約3時間 ③1.5~2時間	・進学に関する情報は日々刻々と変化しているので、留学試験や能力試験の指導、アドバイスについて知りたい。 ・学生の個性も実に様々なので、カウンセリング的な対応に關して気を付けるべきことなど知りたい。
166	62	3	2	①校内研修「初任者に対する教案指導」 ②市で受けた文化庁依頼事業による研修	①3ヵ月 ②3回、各2時間くらい	・外国人が日本で生活していくうえで必要なことの内容。 ビザ、いろいろな資格(在留資格…) ・能力試験、留学試験に対する対策。 ・企業に就職するために必要なこと。
167	37	1	1	日振協の会話活動をどのように授業に応用するか	1日	・大学で勉強している学生の進路、大学内での学習で苦労している点などの統計。 ・アカデミックジャパニーズ(4技能)の中で、最も苦労すると思われるリスニングとリーディング能力の進学後の変化等について知りたい。そこから日本語学校で何が出来るかを考えたい。
168	66	0.8	2	OJTとして新人研修 1. 教案についての個別指導 ・担当教科について作成した教案をもとに教授内容のチェックと指導方法についてのアドバイスをあげる。 2. 授業参観及び事業補助 ・採点、評価の仕方を経験	1. 新採時:全担当課目、3ヵ月間、延べ24時間。苦手(文法、語彙など)課目、3ヵ月間、延べ10時間。 2. 新採時:3時間、6回、3ヵ月間、延べ18時間	1. 学級運営の方法 ・学生の習熟度の把握の仕方及び日々の授業で学生がどの程度理解したかを把握する方法。 2. 評価の方法 ・習熟度を図るテストの作成方法。 ・作文や文法例文等の文章作成についての評価の仕方。 3. 教材の作り方、使い方(レベルごと) 4. 教授法のフラッシュアップのためのトレーニング
169	33	0.7	2	所属している学校が主催した勉強会「自動詞・他動詞について」	勉強会のための準備、勉強:2日間 勉強会:3時間	・学生の生活指導について。 ・学生の母語について(文法、語彙、表現方法など) ・それぞれの国の学生が日本語をどのように理解しているのか(母語のどんな表現に当てはめているのか)。 ・学生が分かりにくい文法、語彙について ・近代のアジアの歴史について(日本が侵略したことなど)
170	67	20	2	日本語教育関係講師を招いてのJASL研修会。	毎年2~3回、1回4時間程度、20年	・ボランティア団体が継続して活動できるよう、新人教育者、支援者の養成を行うためのサポート。 ・一般人に対する日本語教育の必要性の浸透。 ・分かる日本語と話せる日本語を区別することを意識させる教え方。 ・外国人に分かりやすい表現用例辞典の作成(場面毎)。
171	46	10	1	①松山市教育委員会による児童生徒日本語支援者研修。 ・児童生徒の抱える問題や支援者の抱える問題について話し合う。 ②放送大学大学院姫野ゼミによる日本語全般についての研修。 ・文法、日本語教育の現状、指導方法等。	①毎年1回、2時間 ②年2回の頻度	日本の小・中に通う児童生徒への日本語支援者に育成。
172	66	23	3	JALT、教授法を英語やドイツ語で。	毎月1回、25年間	
173	58	17	2	・毎年、所属機関が開催する研究会を欠かさず参加している。(1~2回) ・中央で活躍されている講師を迎え、テーマも様々。 ・第2言語習得、誤用分析、発音指導、教授法(直接法)、文法、実習、レベル別、日本語の歴史、教師力アップ、=画など。	毎月3~4時間 1993年~2010年まで	・国語と日本語 ・コースデザイン(ニーズ、分析、レディネス分析)シラバス、カリキュラム ・教授法 ・実習 ・見学 ・対象別教授法 ・レベル別教授法 ・項目別教授法 ・教具教材論
174	66	20	2	・AJALT主催の中級の指導の仕方など、昭和女子大で開催された種々の研修会(10年前くらいになりますが例年6月頃だったと思います)。 ・現在、所属している、えひめJASLの主催による研修会。毎年2回、半日、日本教育会の日本語教育会の指導的立場にある諸先生をお招きしての講演、ワークショップなど。		・日本語能力試験への対応。 指導法、フォローの仕方。 日本語能力試験の方向性についての理解。 ・文法重視か実用会話重視か。
175	55	15	2	NAFL Institute 日本語教師養成通信講座	1999年5月~2001年4月(取得単位26)	・日本語教育の教授法の新しい流れ。 ・国語教育の新しい内容(例:常用漢字の追加、削除) ・ニーズに応じた日本語教育(例:小・中学生、介護福祉士)
176	75	20	2.3	愛媛大学並びに所属機関主催による研修会に参加。	年2回	
177	54	13	3	ヒューマンアカデミー、日本語教師養成講座	約1年間、420時間	・日本語を指導する立場の者としてより以前に、人として他者と良好な関係を築けるコミュニケーション能力が必要。学習者との関係は勿論のこと、同僚と円滑に意思の疎通をはかることは言葉以前の問題であると考える。
178	64	20	3			
179	53	10	3			
180	60	20	2	文化庁研修・AJALT研修・アルク研修・OPI研修etc…20年で書ききれないほどの研修を受けていますが、秋田県では生涯学習指導者の一人です。秋田県内の教育委員会から委託され、日本語指導者研修の講師を務めたり国際化について小学校や中学校で講演します。	秋田県内では日本語指導者は常勤にはなりません。加配教師で何年も学校で指導者として依頼されても非常勤講師です。給料が安いのと生徒の指導機関が終了すると解雇されるので身分保障がありません。子供たちの発達と成熟と学習の関係を考えるなら、多くの人たちの接触経験、生活経験を通してこそ正常な機能が発達する。いかに地域を巻き込み物理的・对人的環境整備ができるかは重要な意味を持つ。学習者の母語が影響を受ける年齢や環境の把握を、日本語指導者は忘れてはならない。日本語指導者は、自身の人間を相手にする仕事だからこそ専門性が必要だ。可愛そうな人々を助けるためだけに研修はしなくていい。	日本語教授法の基礎知識は必須(地域住民として自立する人間を育てるための日本語教育なら、ボランティア意識で関わられる方が迷惑)社会言語学を学ぶ研修が必要…この研修は、いずれ日本人にも役に立つ研修になると思う。地域の方言と標準語の違いを教える(何種類も在る方言を総合的に指導するのは無理)文法外のコミュニケーション行動は個人によりさまざまで、指導者の鏡のように育つのが外国人だ。私たちが地域で関わる外国人受講生は、留学生や大学生ではなく、自立し一般市民となる住民である視点で忘れてはならない。子供たちの発達と成熟と学習の関係を考えるなら、多くの人たちの接触経験、生活経験を通してこそ正常な機能が発達する。いかに地域を巻き込み物理的・对人的環境整備ができるかは重要な意味を持つ。学習者の母語が影響を受ける年齢や環境の把握を、日本語指導者は忘れてはならない。日本語指導者は、自身の人間を相手にする仕事だからこそ専門性が必要だ。可愛そうな人々を助けるためだけに研修はしなくていい。
181	34	3	3	①養成講座研修 ②AIA研修	①2年、96時間 ②6時間	・基本的な日本語の教授法についての研修。 ・日本語指導者としての心構えについての研修。 ・多文化を理解するための研修。 ・在住外国人等に対する国の政策や、地域の取り組みなどの知識を見付けるための研修。 ・在住外国人等に関する各種手続きについての基礎知識を見付けるための研修。 ・在住外国人等が直面する問題に対する対処法と、精神的な面でのケアに関する研修。
182	79	20	3	20年前前、県の事業として日本語指導のボランティア養成講座が2年間(月2回)位あった。その受講の後、現在の日本語教室をお手伝いすることになり、現在に続いている。		
183	52	5	2	①能代市:日本語指導ボランティア養成講座 ②指導者研修会	①毎月2回(年24回) ②年1回	日本語指導の知識
184	39	3	2	・何をどう考えるか ・教材の使用・教え方のポイント ・かなと発音、日本語の表記 ・文法 ・方言と標準語 など ・直接外国人と接する時間や機会が定期的にあるので、ただ学習(自分の勉強)だけでなく、それを生かす時間もある。外国人と一緒に勉強できる時間でもあるので、どんなことがその人に必要か、どんなことがまだわからないのかなども直接触れることができる。無意識に話している。自分の母語である日本語の難しさを学ぶこと(気付くこと)もできる。(外国人の持つ疑問を今まで疑問に思わなかった。)	・毎年、1年単位で「日本語指導ボランティア養成講座」が市で行われているので、そこに参加している。期間としては1年だが再度申請し、現在4年めの受講。(月1回、2時間) ・「日本語学習会」にボランティアとして週1、2時間通っている。 ・年1回、県が行っている研修会に出席。	まず、関わる外国人の国のことを知らなければいけないと思いました。日本でしか暮らしたことのない私は、自分のものさしでしか向き合ってきた。と最近気がきました。国が違えば文化が違って当然で、でも日本にいて日本語を話すというだけで、同じことを求めてしまったり、それと違ふ違和感を感じてしまったり。でもその日本の文化や特性も教えてあげなければ、その人はずっとそのまま、周りに嫌われてしまったり。それをサポートするも日本語教育に関わって以上で必要なことだと痛感しました。周りへの理解を浸透させることも大事だと思います。関わっている自分でもそう思うのだから、周りの人はそれ以上です。少しずつ周囲への理解も得られるよう努力が必要。子供の世界では感じないことでした。子供は、環境が一人の外国人に対して何十人、何百人の日本人。その中にいるのですぐ適応。子供に対して必要なのはやはり、勉強についていける環境作りだと思います。どんなことが(教科が)苦手か、逆にどれほど得意か、そこを素早く見抜けるようになれば、何をサポートしてあげればいいのかが見えてくるように思います。必要なのは、相手によって違ってくるので、どんな外国人にでも対応できるように、日々努力しなければいけないと思っています。日本人だから当たり前のようにはわかる日本語。これを教えるというのはとても難しい。自分が母語以外の言葉を学ぶ時に何が重要か。どうしたらわかりやすいか。などを考えたいと思います。

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
185	61	19	3			
186	25		3			
187	73	8	3	日本語教える方の講義 日本語教室の見学 具体的な教え方の事例	8回、各3時間位	・具体的な教育方法。 ・良い資料。
188	44	10	3			・外国語としての日本語文法の理解。 ・ボランティア教室と日本語学校との役割分担について目やすを出して欲しい。
189	48		3	現在、日本語教師養成講座(420h)を受講中		
190	63	15	3	受け手の外国人学習者からの日本語教育への要望 日常生活にすぐ役立つ基本の日本語 等	5時間	
191	60	20	1	日本語教育振興協会主催の各種研修 日本語教育学会主催の各種研修		・大学院進学の研究計画書作成に関する研修 ・ビジネス日本語
192	34	7	1	日本語教育振興協会主催の各種研修会。シラバス、カリキュラムデザイン他		作文指導とその評価。
193	56	22	2	大学、日本語教師養成機関で行われた研修会。教材作成、評価、作文指導など		
194	54	13	2	養成講座終了後、養成所における研修会。初級～上級教材を使って教案作成と模擬授業他		
195	63	23	2	日本語教育振興協会主催の各種研修会。シラバス、カリキュラム、教材開発、発音指導、等		作文指導、口頭表現指導。
196	41	15	1	日本語振興協会による研修		視覚教材開発。
197	33	10	1	日振協研修会		留学生心理カウンセリング
198	66	2	3	1. 日本語ボランティア入門講座 「日本語初級文法の基礎知識」を中心に、日本語の音声、外国人から見た日本語、日本語教授法の基礎知識を学んだ。 注:本来は、この講座終了後、ボランティアを行うことになっているが、私は、アルクの通信教育「NAFL日本語教師養成プログラム」修了後に、ボランティアを開始したので、この入門講座の受講が後になつた。 2. 日本語ボランティア勉強会(日本語教授に実習) 電気大学国際交流推進センターの専門の先生が実際に留学生に日本語を教えるのを実際に見学し、その後、自分達で実際に留学生に日本語を教える実習を行った。 この模擬実習により教本の使い方、絵カード等教材の活用、教授法などを学んだ。	1. 日本語ボランティア入門講座 平成21年7月～9月の3ヵ月間、毎週1回、2時間。 2. 日本語ボランティア勉強会(日本語教授に実習) 平成21年10月～平成22年6月、毎月1回、2時間。	私共は、市内で実際に生活している人達を、ボランティアとして教えているので、その人の状況に応じて教える内容を適合させなければならないと考えている。 学習者の状況は種々様々なので、すべてに共通したテキストの作成や研修の実施は無理かと思うが、代表的な事例、例えば地元の工場で働いている人、幼児や児童の親御さん、レストランやお店で働いている人などについて、最低限必要な日本語を教えるため具体的事例に即した研修やテキストが有れば利用したい。 :学習者の国毎に歴史観や宗教が異なるので、これを踏まえた学習者との接し方を十分に心得るなど教えるに当たっての基本姿勢の研修も必須と思う。
199	64	7	3	1. 調布市国際交流協会 日本語 主催 「フォローアップ講座(初・中・上級文法)」と「勉強会(模擬実習)」 2. 文化庁日本語教育大会 ・イラスト(漫画含む)利用法 ・地域における日本語教材作成について ・演劇技法を活用した日本語教育について ・他分科会 3. NHK放送研修センター 主催 「月例 日本語教育交流セミナー」 ・生きた日本語を教える工夫、他 4. 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター 主催 ・第2回多文化協働実践研究全国フォーラム「協働実践のあり方について考える」 ・ハネルトーク	1. 年1回、4日間、3時間×4日間、計12時間 2. 年1回、2日間、各分科会(1時間半×2コース)×2日、計6時間 3. 1回3時間×12ヵ月、計36時間 4. 各分科会:2時間半×2コース、計5時間	・日本語教師(ボランティア含む)の役割「学ぶこと・教えること」の理念。 ・コミュニケーション ゲームの仕方。 ・日本語研究機関の見学研修 ・海外における日本語教育現場の見学と実習研修 ・日本語コーディネーター職の養成研修 ・各研修を日本語教育研究活動の課題・展望・成果発表だけの場とするのではなく、日本語教育の実践に向けた教育実習も必要ではないかと思っております。
200	72	13.4	1	A. ボランティア入門講座(中級学習者対応)所属団体で B. ボランティア入門講座(初級学習者対応)他団体で C. 学習会(月1回2時間程度)所属団体で ・初級学習者対応を中心に、お互いの模擬授業を見て学習・意見交換およびグループ毎の模擬授業 D. フォローアップ講座(初級学習者対応/中級学習者対応)所属団体で ・毎年テーマを設定して、講義およびワーク・ショップ	A. 2時間×10回 B. 2時間×10回 他に他団体主催の単発の講座、2時間程度を数回 C. 月1回、2時間程度、約10年 D. 夫々2～3時間×年2回×約10年	所属団体として ・新しくボランティアを始めた人たちのために 実際にボランティアをして分らないこと、困っていることなどが解決できるような場(マンツーマン形式なので、夫々の学習者に合ったテキストの選び方・全くの初心者への対応、文字、漢字、発音などの教え方のポイント等) 生活や職場に必要な日本語学習のあり方 いわゆる教科書以外の教材の準備・工夫 ・継続しているボランティアのために マンネリ化しないためのアイデア、ニーズが多様な中上級者への学習の工夫や教材選び等 個人として ・日本語を母語としない小中学生のための日本語指導(特に教科での学習用語)や夫々の児童・生徒の母語・母国での学習の違いにあわせた指導方法(ex. 数の概念や掛け算、割り算、中学生の社会科・理科等)
201	65	11	3			毎日授業がある日本語学校とは異なり、ボランティア教室では、週1回の授業がほとんどのようです。そういった、語学学習には不利な条件の中で、効果的かつ学習意欲をそそる学習課題の出し方や指導の工夫について、学習項目別、学習者の習熟度別に(特に、母国において義務教育どまりの学習者には、練習問題を聞いた知識の確認方法などは難しいようです)、ご紹介いただけるとういことと思います。(これまで研修を受けたことがありませんので、的外れな意見かもしれません。)
202	66	1	3	①日本語教育学研究(大学の履修科目として) ・日本語教育のための日本語学 ・日本語の語彙教育 ・子どものための日本語教育 ・日本語の音声教育 ・日本語教育と学習の多様性 ・敬語コミュニケーション ・日本語と中国語の対照 ・日本語の文法教育 ②NAFL日本語教師養成プログラム(通信教育)	①2年、180時間 ②約1年	日本語教育について学んだつもりであっても、実際にボランティアとして行動してみると戸惑うことが多い。 学習者のレベルの判定の仕方、教材の選び方、教案の作成方法などの研修があったらよいと思う。
203	50	8	3			初級の学習者、特に文法的基礎が身につけていないまま、耳からの日本語を誤って身につけてしまった。 学習者に対する学習方法。 本人のプライドもあり、初歩の初歩からという訳にいかない。 重点的に何をどのように教えれば良いか、効果的な学習方法が学べたらと思う。
204	73	8	3			
205	70	8	3	あいまいな日本語の教え方 自動詞、他動詞など文法を学び直した。	間隔は空いていたが2年間位、月に2回、1回約2時間	・伝統のある日本の文化。 ・四季のある日本の自然の良さ。
206	54	5	3	1. 日本語ボランティア勉強会 「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」を使用して、参加者が毎週順番に学習者(留学生)に授業実習。その後、電気通信大学教授より、ご指導、アドバイスを受ける。月1回、実習での問題点や疑問点などを参加者同士で話し合う。 2. 日本語ボランティア勉強会 「みんなの日本語Ⅰ」を使用して、月1回、グループ(4～5人)で留学生に授業実習。その後、実習での問題点や反省などを話し合う。 3. フォローアップ講座 ①学習者のニーズにあった教材選び ②中級文型とは ③「みんなの日本語Ⅰ」を使った初級問題の作り方、「初級文法・助詞」 ④「みんなの日本語中級」の進め方 4. 420時間、日本語教師養成講座	1. 2006年1月～2009年6月、月1回、2時間 2. 2009年10月～2010年6月、月1回、2時間 3. 年1回、5時間(2日間) 4. 2008年4月～2009年10月	1. ボランティアをしていく上での、コミュニケーション能力や表現力のスキルアップ。 2. 学習者に聞き取りやすい発音の仕方や、学習者にわかりやすい話し方。 3. 長い間、日本に滞在し、不明瞭な日本語の発音が身につけてしまった学習者に対する発音の直し方。 4. 中級・上級学習者に対するトピックやテーマの探し方。 5. 最近、よく耳にする「対話中心の活動」について、具体的な様子をビデオなどで紹介。
207	63	3	3	日本語言語研究所 3級、2級、国内実習、海外実習	約2年間、合計約400時間	・言葉・会話でも基本的な、ひらがな、カタカナ、基本的な文法も必要なので簡単に導入する方法。 ・外国人と接するので、国際感覚、国際情勢の教養を身につける方法。
208	40	2	2	授業で使う教材をもとに、クラス計画をみんなで共有。どうした方がいいか、こういう方法もあるということ話し合う。	週1回、1時間	
209	43	5	2	①ボランティアとして、大学の日本語教育の先生から、日本語教育の研修をしてもらいました。 ②所属している機関で、勉強会をしています。所属先でも研修をしています。	①1年間程度で、月2～3回、2時間 ②週1回、1時間程度	
210	51	10	1	1. トルシーダ指導者勉強会―担当の子どもに合わせた教材の研究 2. 外国籍児童・生徒サポーター養成研修―現場で役立つノウハウ(日本語指導) 3. 就労支援につながる日本語教室のあり方 4. 「みんなの日本語初級Ⅱ」の教え方講座 5. 「みんなの日本語中級Ⅰ」の教え方講座 6. 子どものための日本語ボランティア研修―「かんじだいすき」を使用した日本語指導の実践	1. 必要に応じて随時(年間30～40回、1回1時間)、3年間 2. 平成18年9月16日～平成19年2月24日、全6回、(約20時間) 3. 平成18年9月17日～平成19年2月18日、全6回、(約12時間) 4. 平成20年、約3時間 5. 平成21年、約3時間 6. 平成22年3月21日	
211	40	6	2			①子どもの言語習得。 ②発達と言語の関わりについて。 ③学習言語の指導。
212	41	3	2	日本語学習指導の進め方 教材の使い方	1時間/週	
213	51	10	2	1. トルシーダ指導者勉強会 2. 外国籍児童・生徒サポーター養成研修―現場で役立つノウハウ 3. 就労支援につながる日本語教室のあり方 4. 「みんなの日本語初級Ⅱ」の教え方講座 5. 「みんなの日本語中級Ⅰ」の教え方講座	1. 平成20年～。必要に応じて随時、年間30～40回、1回1時間 2. 平成18年9月16日～平成19年2月24日、全6回、(約20時間) 3. 平成18年9月17日～平成19年2月18日、全6回、(約12時間) 4. 平成20年、約3時間 5. 平成21年、約3時間	
214	46	6	2			学習者にあわせた指導内容と方法について。
215	58	15	3	・日本語教授法講座(初級) ・日本語教授法レベルアップ講座 ・その他多数	1995年～2009年まで、約200時間	・異文化交流について(文化の違いにより常識が違ってくるので) ・音声について(日本語の難しい音声、発音の仕方) ・行政はボランティアに任せきりのため、自由にできる反面、ボランティアだからと、いい加減になってしまう面もある。両者が協力して、よりよい日本語教室にしたいものである。
216	67	3	3	①初・中級日本語の教え方 ②多文化コミュニケーション日本語支援 ③初・中級日本語の教え方 ④会話から始める日本語教室 ⑤初級日本語教授法 ⑥初級日本語教授法 ⑦日本語ボランティア情報交換会 ⑧日本語ボランティアの教え方講座初Ⅱ(みんなの日本語初級Ⅱ) ⑨初級日本語教授法Ⅱ	①2007年2月7日～3月20日、14時間 ②2007年9月1日～9月15日、12時間 ③2008年2月～3月、4時間 ④2008年10月～2009年3月、29時間 ⑤2009年2月21日～3月22日、11時間 ⑥2009年8月～9月、8時間 ⑦2009年9月4日、3時間 ⑧2009年10月～2010年2月、26時間 ⑨2010年1月～3月、20時間 合計:127時間	立派な教科書はあるが、如何にそれを外国の生徒に判り易く教えるかのスキルアップに力を入れてゆく必要があると思う。 そのためには日々の教える苦勞を基に他の先生がどのように教えているかを研修を通じることが必要と考えるし、専門講師による実際の教え方、資料、道具等を何回も学ぶことも必要と考えます。 ボランティア教師は、以上のチャンスを自ら見つけ参加すると共に機関の事務担当は積極的に開講の情報を伝達し教育させるチャンスを与えることも重要だと考えます。
217	68	13	3	教え方―初級向け、中級向け、教授法一般	・市交流協会主催(平成12、14、15、16、17、18、19、21、23年)、教え方講座受講 ・アルク、短期(6ヵ月)通信講座終了(平成8年) ・アルク、(2年)通信講座終了(平成21年)、他	
218	68	2	3	地域に居住する多国籍の外国人に対する日本語の初歩からの教え方	(教壇に立つ前の受講) 平成20年2月～3月×10回×2時間 (その後の受講) 平成21年8月～9月×5回×2時間 平成22年1月～3月×10回×2時間 平成22年8月～9月×5回×2時間	
219	71	8	3	小山市国際交流協会、研修部会主催「日本語教授法」(初級・中級)	10回コース/毎年×8年	いろいろな部門が「日本語教育」にかかわっていると思いますが、もっと連携してレベルアップをはかってほしい。 420hの勉強が基準になっているような気がします。(JICA,JICEなど)
220	67	13	3	日本語教授法初級 日本語教授法レベルアップ	2010年8月、10時間 2011年1月～3月、20時間	
221	43	20	1	①現在所属している機関での新人研修(授業見学や新案作成など) ②アルク日本語ジャーナル NAFL Institute 日本語教師養成通信講座	①3ヵ月 ②420時間	①教科書、教材作成に関する研修。 ②can do などコースデザインカリキュラムに関する研修。

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
222	59	15	2	①ACTFL-OP1第12回ワークショップ(試験官養成用) ②学内研修 ・教材研究 ・PC技術 ・コーチング ・パワーポイント	①1999年2月 ②各1、2時間程度、教材研究は週1時間程度で6ヵ月位あったと思います。	・コースデザイン ・成績評価 ・テスト、教材作成 ・ビザ関連の知識、異文化交流 ・画像処理 など
223	37	12	2	日本語教師養成講座		学習者のニーズが多様化する中で、より高度な日本語を必要とした場合(特に難関校と呼ばれる大学の進学希望)の試験問題対策として日本人と同等のレベルの読解や小論文の指導力が求められるようになってきています。このようなものについての研修があればと感じています。
224	46	6	2	現在、所属している機関で問答法による導入と練習	4時間/日×12週間	民間の日本語学校であれば、大学や外国にある学校での日本語教育のあり様、大学であれば反対に民間の日本語学校で行われている教育について知ることが出来るものが必要だと思ふ。 日本語学校から大学(院)専門学校へ進学した後、どのような能力が必要とされるかについては比較的わかりやすいが、反対に大学や院では民間の日本語学校でどのような教育がされているかはあまり知られていないように思う。日本語教育をもっと総合的にとらえられる機会が必要だと思ふ。
225	38	12	1	・本校作成の初級テキスト「いつでもどこでも日本語」の進め方 ・長沼教授法の習得 ・初級教案の作成	研修期間:3ヵ月 授業見学:220コマ程度 研修期間:400時間程度	以前、学習塾で働いていたことがあり、その研修で非常に授業力が伸びたと思うので、それを紹介します。 そこでは、各教師の授業力を点数化し、それが人事課の中に含まれていました。 その手順は ①授業をビデオにとる ②後日、その教師と複数の教師が、その授業をビデオで見る。その際、50項目以上ある「授業採点シート」を用いて、その授業を採点する。 ③上記のことを年に3、4回行う。 利点は、 ・各教師の欠点が、明確になることで課題がすぐわかる。 ・授業力がアップすることで、給料も上がるので、積極的に改善していこうという気持ちになれる。
226	36	7	1	①ブラッシュアップ養成講座 ②日本語教育能力試験 直前対策 ③2010年度日本語教育学会 春季大会	①週1回、1日2時間 ②1日、9時～17時 ③1日、9時～17時	専門分野(ビジネスや福祉など)の日本語教育
227	29	1.2	2	本校教師が行う授業の見学 教案作成の指導	3ヵ月(1日4時間/週5回)	留学生、就学生の法的な資格と手続き上の流れを知りたい。初級前半だけでなく、初めて教える課の指導をしてほしい。研修生の負担軽減のために、具体的な授業の流れが分かる指導書もしくは教案が必要だと思う。 学生の大学や専門学校への進路についての対応をもっと知りたい。
228	49	8	2	①教材に使うイラストの書き方 ②ビジネス日本語教育に関するケースメソッド	①2～3時間 ②2日間	
229	26	3	1	①「日本語教育に必要なエクセルの使い方」、2010年ベトナムホームミンにて、VJCC(日本ベトナムセンター)主催 ②「新しい日本語能力試験」	①②1日、3時間くらい	・外国人の在留資格に関するセミナー。 ・各文法ごとの教授法のセミナー。
230	44	12	1	①就業前研修:教案作成(文型指導(初級・中級)、聴解指導) ②校内研修:学会や研修会(校外)で得た情報の共有化 ③教材勉強会:使用教材に関する教材研究	①約1ヵ月 ②4回、90分 ③約2ヵ月(週1回、60分)	教授法 ・新しいメディアの登場により、教育をとりまく環境が変化しています。時代に即した教授法や教育環境に関する研修。
231	66	25	1			教育内容も然ること乍ら、特にクラス運営の仕方、学生との対峙の仕方など、教師自身どうあるべきか、外国人に対しての接し方等、より細かな部分での指導が必要であると思う。特に最近の若い教師に対しては、その思いが強い。更に試験など目の前の対策にのみ焦点を置き大局を見失いがちな教師も多い。日本語教育の原点を見据える研修も必要だと思う。
232	37	2	2	・教案作成 ・模擬授業(初級)	・約1ヵ月 ・10時間の授業	・服用に対して、どう応じるか、どう修正するか(授業内/作文) ・発音をよりよくなるためには、どうすればいいか。 ・国籍別の教え方のコツ
233	30	2	2			作文、会話等の指導法について。
234	7	2	2	①YWCA中上級クラス授業(実習) ②ACTFL-OP1会話授業 ③中上級授業-生教材の活用法(新聞、雑誌、VTR)	①6ヵ月(月に2回、1回につき4時間程度) ②1日/4～5時間 ③1日/4～5時間	・効果的な会話授業のすすめ方 ・発音の効果的な矯正法 ・新能力試験の対策授業
235	29	2	2	①授業見学(各レベルのクラス)、実習(初級、中級レベル) ②会社概要、学校方針、授業の進め方などの説明、授業見学	①2週間(授業見学4時間×5日=20時間+実習2時間×2回=4時間)→24時間 ②3日間(5時間)	その学校の方針をしっかりと理解できる研修を学校ごとに工夫して、経験、未経験、関係なししていく必要があると思われる。
236	61	21	2	・日本語教育現場における教師の自己・相己研修(国立国語研究所) ・日本語試験アイテム作成 ・日本語の音声指導(民間機関)	・自己研修(夏休み) ・アイテムライター(2年)	1.新聞記事を活用した授業の研修 2.大学入学後の授業を考慮し、能動的学習(グループ学習、プロジェクト学習を通じて共同で発表させる)の訓練が必要だと考えています。 そのためには、学生がお互いに学び合える授業を推進し進めることのできる橋渡し役としての指導力を高める研修が必要だと感じています。
237	26	2	2	・授業見学をさせてもらい、また、してもらおう。 ・授業計画書の添削。	・4時間程度(授業見学) ・就職直後	他校の授業見学。
238	29	0.2	2	・授業見学 ・教案のチェック、アドバイス ・授業のフィードバック	・毎授業ごとに ・現在も研修期間中です	現在の環境で満足しています。
239	29	6	1			
240	24	1.5	2	・授業見学 ・教材研究	2日間、計10時間	教えるという以外で、対人の仕事なので、異文化理解と異文化でなく、ただ普通のコミュニケーションのあり方。 学習者と教師の距離感や対応の仕方など自然に身につくと思われるが、最近そうではなく勉強が必要(意識化)と感じる。
241	64	22	2	大学副専攻で学習する内容(日本語史、日英比較学、語用論、その他)	1999年～2002年	パソコンやプロジェクターを使った授業についての研修など、新しい形の授業のやり方が身に付けられたらうれしいです。これから必要になるのではないかと思います。
242	45	8	3			日本語教育とは、どういう事なのか、具体的に生徒の前に立て、どういう事を教えるのか理解されていない。 国語と比べて日本語とは、どういう物を覚えてもらった後に、実際に教壇に立って教えるシミュレーションを体験してもらおうが良い。
243	26	2	3			日本語を外国語として教えるためには、先生本人が外国語を学んだ経験があることが大きながらいをよぶ。 忍耐強い性格も大事である。 日本語研修よりゆうせんなのは経験と資質であると思う。
244	35	0.5	3			学習者との関係について 教え方を話しあう研修など。
245	60	6	3	日本語養成講座	20時間	研修目的:学習者のニーズに答えられる授業にするために。 研修内容:学習者のレベルが多少異なるクラスでの授業テクニック。
246	37	2,3	2,3	集中講義が10回あって、その後、ボランティア活動をはじめました。クラスがはじまってからは、ベテラン先生に助言して頂きながら自分なりの講義をしました。 研修時間は1日3時間くらいでした。 内容:日本語ボランティアとは何か…。クラスのすすめ方などです。 勤務場所:つくば市振興財団とブラジル学校の日本語教師。	資格をない教師でも、経験年数を考えて仕事をつくってほしいです。 又、金銭面で受けられない先生に対して補助金が出るとうれしいです。 実践的な内容がほしいです。	
247	52	1	3	①日本語教育について ②日本語講師講座	①2010年7月～8月、4日間、8時間 ②2010年6月、4日間、8時間	・助詞の使い分けに関する説明方法。 ・類義語に関する研修。 ・発生法について。 ・日本語のイントネーションを教える。
248	42	4	3			日本における外国人の状況と日本語教育の現状(特に地域ボランティアの点から)
249	53	3	3			
250	62	25	1			
251	62	3	2	授業技術について 教材研究について	1週間、1日2、3時間程度	
252	46	11	1	①当校で使用する教材を使い、授業形式で模擬授業を行う研修 ②教材検討会における使用活用法の研修	①就職時に1日2、3時間を約1週間 ②月に2、3回(最近では4回)、3時間ほど	フィリピン、インドネシアの看護、介護の仕事に携わる人に対する日本語教育に必要な研修。
253	48	3	2	・当校での使用教材で模擬授業を行う。 ・又、教科書研修も随時行っている。 ・EPAにおける研修	入社時:1日2～3時間程度、1週間 EPA:4日間、8:00～18:00	定期的に教材についての研修会や他校同志の研究会もあればいいと思います。
254	30	5	1	・日本語のテキストの使い方 ・授業の進め方 ・学生との接し方 ・日本語教師としての注意点	2～3時間程度の研修を1週間行っった。 また、日々勉強もしている。	日本における日本語教育のあり方。 今、外国人は何を求めて日本に来るのか。 大学進学に向けての教育と日常生活会話を中心とする教育など。幅広い授業形態について。
255	50	11	2	当校で使用する教材を使い、授業形式で模擬授業を行う。また、教材検討会における使用活用法の研究	入社時:1週間、1日2～3時間	実践で使える研修が必要であると思う。(どの教育機関においても)
256	27	4	1	模擬授業(初級・中級)とフィードバックなど	現在の学校で勤務開始前に1週間程度(1日2～3時間) 履修期間で随時、勉強会など	音声(発音)指導法。
257	58	2	2	・初級、中級、上級別に教科書の使い方や指導法。 ・教師として学生との接し方。 ・出席率やアルバイトに關しての説明。	約1週間	・初級、中級、上級に分けて、それぞれの指導のポイント。 ・日本の大学へ進学希望する学生が多いので、試験対策や面接練習の際のアドバイスのしかた。 ・文法、読解、作文、会話、聴解、文字語彙等の授業の進め方。 ・自作教材についてのアドバイス(特に初級は必要です)
258	44	1.5	2	・指導方法 ・学校の方針、規則など	1週間、1日2～3時間	指導方法。
259	32	1	2	・初級、中級の文法の模擬授業とそれに対するフィードバック ・学生との接し方、教師としての心構え等の諸注意	1週間(1日2、3時間)	
260	37	11	2	①内部研修:初級後半の教え方、中級教科書分析、OPI ②外部研修:地域コーディネーター研修など	①3ヵ月、32時間～2日間・8時間 ②2日間、8時間～1泊	・地域コーディネーター育成(実践にいかすため) ・生活漢字の指導法。
261	45	12	1	①内部研修:文法のゼミ、模擬授業(2時間×6回、3.5時間×3回) ②外部講師を招聘しての研修(5回、4時間×1回)	①就職後すぐ、ゼミ:2時間×6回、模擬授業とフィードバック:3.5時間×3回 ②1回4時間	・さまざまな教授法。 ・日本語の基礎知識。 ・実践例を知る。
262	49	16	1	①初級後半の文法、教え方を学ぶ(実習を含む) ②地域コーディネーター研修、地域の日本語ボランティア教室のリーダーには何が必要か ③中級の教科書を分析して授業に活かす ④OPIとは、OPIをプレースメント、アプリーメントインタビューテストの評価に応用する ※他は、1日の研修	①3ヵ月、32時間 ②2日間、12時間 ③2日間、12時間 ④2日間、8時間	・異文化教育。 ・コミュニケーション教育について。
263	36	13	1	トヤマ・ヤボニカ研修 ①新人講師向け研修(ゼミ、模擬実習、実習) ②外部講師招聘研修 外部研修 ③富山県地域日本語支援 コーディネーター研修会(とやま国際センター)	①1997年9月～12月、55時間 ②1997年～2005年、4時間×5回=20時間 ③2003年9月	・地域日本語支援。 ・年少者支援。 ・「協働」に関わるもの。
264	51	7	2	①初級後半文法、教授方法(模擬実習含) ②初級後半文法、教授方法	①20時間 ②16時間	・地域日本語教育の理論(実践から導き出されたもの) ・授業で使える具体的な実践例と習得状況。
265	60	16	2	①初級後半研修 ②OPI研修 ③読解研修	①半年、20時間 ②1日、5時間 ③読解、5時間	
266	36	3	2	AJALT&トヤマ・ヤボニカCan-doワークショップ	約3時間	・より実践的な研修 教材や教科書の効果的な使用についてなど。
267	29	3	2	チューターによる教案確認、授業のモニタリング、フィードバック	30時間程度	・教授方の情報の共有。 機会があれば他で実際にされていることを参考にしたい。 ・発音、音声 個人的に不足しているか
268	31	1	2			
269	51	10,1,3	2	・初級後半の文法 ・敬語 ・地域日本語教育 ・ピアラーニング		
270	44	4	3	プロの日本語教師による「みんなの日本語」を中心とした補講、初級、中級、ボランティア講師からの質問	ブラッシュアップ講座 平成18年、1.5時間×5 平成19年、1.5時間×6 平成20年、1.5時間×6 平成21年、1.5時間×3 福奥町国際交流協会	ひらがな、カタカナから始める生徒へのアプローチがわからなくて困ることがありますので、そういう教材を使った研修があればありがたいです。 又、なかなか直接話で教えるのが難しく英語を使いながらになって反省する事が多いのですが、授業方法や対策を教えてくださいたいと思います。

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
271	54	5	3	①稲美町国際交流協会主催、日本語講師養成講座 ②主として指導上、困っている所などの質疑応答 ③ブラッシュアップ講座 ④日本語ボランティア勉強会、養成講座中級	①平成15年から、7月～11月(計20回) ②平成18年、9月～2月(計5回) ③平成19年、6月～2月(計6回) ④平成20年、10月～3月(計6回)	・文法も重要だと思いますが、ある程度習熟すると会話の中で使い方を中心にするよといと思います。 ・中級カリキュラムの中での講座で「おしゃべりのたね」というテキストは興味深かったです。 ・私は主として、短期間滞在のALTなどに教えていたので、よく使い日常会話を中心に「みんなの日本語初級」から拾い出していました。短期間滞在の人間向けのテキストがあればいいと思います。 (思いつくまま書き出してみました。まとまりがなくて申し訳ないです)
272	59	7	3	・「みんなの日本語」I・IIから教えるいところの補講 ・ボランティアの日本語講師からの質問項目 ・日本語検定の問題 ・初級から中級へ ・「みんなの日本語」のブラッシュアップ、等 プロの日本語教師に教わりました。	日本語講師支援事業(稲美町国際交流協会主催) ・平成18年、9/28、11/16、12/21、1/18、2/22、5回、1.5時間×5 ・平成19年、6/29、8/30、9/27、11/13、1/17、2/21、6回、1.5時間×6 ・平成20年、10/17、11/21、12/19、1/16、2/20、3/16、6回、1.5時間×6 ・平成21年、1/29、2/19、3/26、3回、1.5時間×3	
273	30	6	2			
274	38	13	1			・進学指導の方法についての研修。 ・中・上級、超級の指導法。 ・ビジネス日本語、スキルの指導法とコースデザイン。
275	33	4	2	・模擬授業の指導 ・教案作成の指導	約2ヵ月	
276	52	2	2	①教案の書き方 ②教師としての心がまえ ③導入の方法 ④授業の展開例について ⑤教授事項の効果的な提出方法について ⑥練習パターン組み合わせ方	①3ヵ月 ②週4日、1日4時間	・日本事情など。文化をどう扱うか、また教えるか。 ・学生の適応の問題。 ・学生のモチベーションの高め方。
277	26	2	2	・教案添削 ・模擬授業(指導して下さる先生の前で2～3回授業をしたあと、実際に学生の前で授業をした。ビデオに撮って置いて、あとで振り返った)	2週間くらい。 その後、教案添削は1年ほどしていただいた。	・教案指導(1度、自分で教案を書いて、それを見てもらうことによって、見落としや間違いを指摘していただく)
278	37	11	1			・新人教師の研修(授業担任業務、進学指導など) ・ある程度経験を積んだ教師がスキルアップするための研修(授業) ・日本全国の日本語学校の教師間の情報交換。 ・教師が入管、ビザについての理解を深めるための研修。
279	24	2	2	・教案チェック ・他教師の授業見学 ・自分の授業を見学していただいた上での反省会(良い点、悪い点を自ら考えたり、他教師に評価してもらう)	3ヵ月(就職し、授業をしながら研修を受けた)	・学生のビザ等に関する基礎知識。 ・JLDT、留学生の進学などに関する知識。 ・実践的な教壇実習の充実。 ・古い教授法にとらわれないよう、新しい日本語教授法を使っている授業の見学や実践。メディアを利用したものなど。
280	53	13	2	・1年に2回兵庫日本語教師連絡協議会主催の研修会(1回1.5時間) 文法、教え方、作文など、現在まで多岐に渡るのに記載できません。 ・1年に1回神戸YWCA学院研修会 EPAの日本語教育、文法、各種テキストについて、1回1.5～2時間 ・凡人社、学会など		
281	51	3.5	2	「テーマ別中級から学ぶ日本語」の教え方、第2回	約1.5時間	例えば、「会話」「作文」「読解」「聴解」「発音」などを、それぞれ「入門」「初級」「中級」など、各レベル毎に「初級会話」「中級聴解」というように分けてあり、より細かく具体的にポイントがしぼりこまれた研修があれば参加したいです。 また、自分の(所属する機関で)使用するテキストごとに選べる研修で執筆によるものでなく、それを使った経験のある教師によるものが興味深いです。
282	34	4	2			教育者同士が情報を交換し合う事(特に留試、能試対策についてや、多種の国々の学生の傾向と対策等)
283	67	27	2	①国立国語研究所、日本語教育夏季研修 ②日本語教育学会、日本語教育集中研修会 その他、下記(主催)の研修会など数多くの研修に参加しました。 ・文化庁日本語教育大会 ・兵庫県国際交流協会 ・神戸大学留学生センター ・日本語方法研究会 ・凡人社	①昭和60年～平成2年(160時間) ②平成5年、6年、60時間	現場に即した研修が必要だと思います。 日本語教育は、日本語教師養成機関で420時間受講しただけでは、とても難しいと思います。そこで、いろいろな角度からの研修を受けて教師の成長を促すことが大切だと考えます。
284	55	7	2	・初級の教え方 ・中級の教え方、など	20時間ずつくらい	①その時々最新の研究の成果を学べるもの。 ②会話を高めるトレーニングの方法を学べるもの。 ③新しい言葉を学ぶ、学生の立場になるもの。 ④語学を修得するメカニズム、人間の記憶に関する研究の成果を学べるもの。
285	65	30	2			
286	60	0.8	2	神戸YWCA学院、日本語教育実習講座 「テーマ別中級」教え方	2010年4月～7月、65時間	
287	23	1	2			
288	73	14	2	秋田にほんごの会主催の学習会に於いて、2004年から2010年までの7年間、毎年20時間、言語学、文法、異文化コミュニケーション等の講座を受講。		日本語教師に必要な知識を深め視野を広くするために必要な言語と文化に関する専門的な講義やワークショップ。
289	65	18	2	・日本語教授法(I・II) ・日本人の言語行動 ・日本語学習者の心理学(異文化理解と心理学) ・日本語の文法(I・II) ・社会言語学 ・日本語の音声(I・II) ・日本語の文字表記 ・日本語教育評価 ・異文化間教育とコミュニケーション教育 ・子どもの日本語サポート		・初級レベル学習後、運用能力を高めるための指導法について。 ・非漢字圏の学習者のための漢字の学び方について。
290	39	15	2	JSLカリキュラム指導者研修	2日間×2、6時間	
291	71	11	2	※退職後のボランティア活動としてなので、次のような研修を受けている。 1. 日本語教授法入門、ミネソタ州立大学秋田分校教員人教育 2. 日本語教師養成通信講座、NAFL Institute 3. 日本語ボランティア研修、AJALT国際日本語普及協会 4. 日本語指導者研修、秋田県学術国際課主催 5. 他、秋田にほんごの会主催の研修会などに随時参加	1. 5月、6月、7月、毎週10日(1999年) 2. 1年間の通信講座(2000年) 3. 2日間(2003年) 4. 1日間(2007年) 5. 1回、2時間くらい	・日本語教師養成上の決められた内容でよいと思いますが、「教育実習」に時間を多く組み込む必要を感じます。教職体験でない場合、特に必要性を感じます。他者の授業参観、自分の授業の提示など実際の現場での研修です。 ・学習者との心理的によりコミュニケーションの取り方、初心者(学習者の)の日本語のわからない定住者などへの接し方など。 ・生活支援に関わる問題提起についての話し合いなど。
292	69	9	2	①日本語教授法講座(秋田日本語の会主催) ②日本語文法のしくみ(秋田日本語の会学習会) ③日本語文法再入門(秋田日本語の会学習会)	①理論編:2003年4月19日～5月24日(8日間)、実習編:2003年6月7日～8月2日、9回、計36時間 ②2006年6月～10月、毎月1回、計5回、10時間 ③2007年6月～10月、毎月1回、計5回、10時間	授業力研修を行い指導技術、教材研究、補助教材の作成等の力量アップを図る。
293	51	1.5	2	(YWCAの初任者研修) 担当教科の授業の4or5回目を授業を30分間ビデオに撮り、後日、そのビデオを(教案提出)しながら、専任の先生方がコメントを下さいます。 自分の授業を見ることが、あまり機会もなく、若い方のくせ等もわかり勉強になりました。 何より、教案だけでは分からない、クラスコントロールや学生への対応の仕方等を細かく指摘して頂いたのが、その後授業をする上で財産になっています。	聴解、読解等の個々の能力を伸ばすための授業のやり方の研修があれば有難いです。	
294	51	14	1	・大阪YWCA日本語教師会の新人研修(約3ヵ月間に7～8回) ・日兼協、日本語教育学会の研究大会、学会などに各数回参加 ・凡人社の研修(?)10回以上 ・エール学園等、他教育機関主催の受験、就職指導についての研修会に数回参加		就職指導についての研修
295	58	29	1	・全専日協主催:主任講師研修 ・日本語教育学会主催:教授法 ・YWCA主催 地域の日本語教育に関する研修 様々な文法に関する研修 教え方に関する研修 など多数ありますが、タイトル等はつきり記憶していません。	1年で平均30時間とすると、900時間ということになるでしょうか。	学問的な研修以外では ・リーディング論などの、人と人とのコミュニケーションに関するもの。 ・言語を使うのは人間なのに、学問の方に片寄りすぎている。心理的な研修も、もつとされるべきと思う。
296	51	3	2	・新人研修(教え方) ・初級文型の教え方 ・中級文型の教え方 ・作文(3時間×3)		科目対応(会話、作文、読解、語彙、聴解～検定対策、留試対策等)のための実践的な研修。 ・目標設定 ・カリキュラムのたて方 ・指導法
297	55	22	1	・教材作成 ・教え方 ・日本語 ・教材の使用法 ・国の施策 ・留学生 ・生活者の状況 ・マイナー言語学習 ・異文化理解 ・言語学 ・国語と日本語 ・母語保持 ・公教育における日本語教育 ・日本語教師としてのあるべき姿 ・教員研修 ・ビジネス日本語 ・海外日本語教育事情		
298	59	16	2	①学会の報告会+ワークショップ ②新日本語能力試験の変更点と問題作り ③地域の日本語教室の活動支援、講習とワークショップ ④外国人児童、生徒の日本語支援 ⑤中級以上の学生の教えかた ⑥中国人の思考形態と中国語 ⑦新人研修	①2時間×4回 ②2時間 ③4時間×2日間×3回 ④3時間×3回 ⑤2時間×5回 ⑥2時間 ⑦2時間×7回	①日本語教育機関で教える日本語はどういう日本語をみざすべきか。 ②日本語学校の校務の考察。 ※地域の日本語教室との差異。また、連携についても
299	28	5	2	・新人研修 新人の頃にビデオで録った自分の授業風景と教案を見ながら専任の先生に様々な指摘をしていただくもの	3ヵ月くらい	①授業のやり方に関する研修。これは本当に必要だと思う。授業がマンネリ化してしまうから刺激が必要。(皆の前で模擬授業をして、お互いに指摘しあう、など) ②各科目の教え方、カリキュラムに関する研修(読解、聴解、会話、発音、作文など)
300	34	5	1	①文化庁日本語教育体会 ②帰国者のスクーリング研修会 ③新人研修(有料)教案チェック、授業のビデオどり→専任のコメント	①1回8時間×3回=24時間 ②1回8時間×3回=24時間 ③1人、3～4時間で、他にも新人がいたので、それもあわせると14時間くらい	・情報の共有(学生や留学生の動向、国の政策など)東京と地方ではかなり違うと思うので。 ・日本語教育と就職・進学を結びつけるには。 ・日本語教師が身につけておくべきスキルとは。
301	38	10	2	・最も最近受けたもの インターネットの日本語教育への活用法	2時間程度	・インターネット、パソコンの活用法。 ・大学院進学を目指す留学生への進路指導のあり方について。 ・新形式の日本語能力試験に関して。
302	62	2	2	1. 新人研修 2. 初級文型の教え方講座 3. 読解授業の教え方講座 4. 作文授業の教え方講座 ※その他、凡人社主催のセミナーなど、数多く受講しておりますが、回数はカウントしておりません。	1. 2009年5月～6月、15時間 2. 2009年4月～9月、35時間 3. 2009年7月、9時間 4. 2009年7月、9時間	日本語の能力が、コミュニケーション能力を重視していく方向にあることに伴い、教授法や教材も、それにふさわしいものが求められている。日本語教師として常に問題意識を持ち続けるために、そういった新しい傾向について勉強できるような研修を受けたいと思う。
303	56	20	1	・OPi ・技術者向け ・Can do ・コミュニケーションゲーム、他		留学、進学目的の学生だけでなく、ビジネス、ワーホリ、定住者、年少者向けの教育が必要。
304	55	17	2			会話、発音などオールラウンドでの実用的な指導法。
305	54	16	2	・日本語のゲーム ・中級教材		会話の指導法。
306	44	9	2			会話の指導法。

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
350	32	5	2	1. 講師、教務スタッフの全体会議 ・教育目標、各コースの目標、業務内容、指導のあり方等の確認。 2. レベル別会議、クラス会議 ・レベル毎もしくはクラス毎に授業の進め方、コースの到達目標などを確認。 3. 教務主任によるオブザーブ ・毎学期、教務主任の先生にオブザーブしてもらい、授業の進め方、学生指導に関してのアドバイスをもらったり、確認、相談をする。 4. 各レベル文法項目について、担当ごとに研究、文法項目の特徴や導入例などをまとめ、発表、話し合い。	1. 毎年2回(4月、10月) 2. 3ヵ月に1~2回 3. 3ヵ月に1回 4. 平成21年4月	・ブラッシュアップのための研修 指導法、教案などについて、各々アイデアを持ち寄り話し合う場などが必要だと思う。 ・教科書、教材研究等。
351	44	1	2	1. 勉強会 ・クラス別で文法項目を調べて発表する。各々指摘し合う。 2. 授業のオブザーブとフィードバック ・各学期ごとに、教務主任が授業をオブザーブし、改善点について授業後にフィードバックする。(導入の方法、すめ方、学生との関わりなど) 3. 講師・教務の全体会議 ・生徒指導や授業のすめ方、学校の教育方針など統一されているか確認。 4. 同じクラスを担当する教師との会議 ・教師ごとに、ばらつきがないように確認。学校の方針に沿った授業のすめ方ができているか、生徒指導の情報交換などを行う。	1. 4月に2時間 2. それぞれ平均6日間で計18時間 3. 4月と10月で計4時間 4. 8回で計16時間	教務主任による授業のオブザーブは非常にためになっています。これは、今後も必要だと思っています。
352	43	2	2	①年2回の全体会議で学校の方針と授業の進め方についての確認。 ②1期(3ヵ月)に1回、教務主任によるオブザーブ、カリキュラムで教える内容がきちんとできているか確認。FB。 ③少人数によるグループで1期ごとに文法項目の導入研究勉強会。	①年2回、各2時間ずつ ②年3回、1回90分 ③年に3回	・中上級からの教授技術をアップさせる。 ・N1,N2対策に必要な知識。 ・適切な例文を提示できるようになるための学習会、など
353	30	5	2	①講師、教務全体ミーティング ・教育方針、カリキュラム、具体的な授業の進め方等を確認するためのミーティング。 ・生徒指導の方法もあわせて確認する。 ②クラス・レベル別ミーティング ・授業の進め方、遅れがちな学生について、その原因・対策を確認する。 ・教育方針に沿った進め方も確認。 ③教務による授業オブザーブ ・講師の授業を教務が定期的にオブザーブし、問題点、改善点をフィードバックする。必要があれば、再度オブザーブする。 ④初・中・上級それぞれのレベルから文法項目を抜き出し、講師が研究、発表する。勉強会の形式で行う。	①平成21年4月、および10月、計4時間 ②平成21年度中に8回、計6時間 ③平成21年度中に各講師平均6時間、計18時間 ④平成21年4月、2時間	講師同士が経験年数や教授レベルのかかいかいなく、自由に授業を見学したり、教え方等について討論できるような場が設けられたら良いと思っています。
354	45	7	1	1. 教務スタッフ及び講師の全体会議:当校の教育方針、授業の進め方を再度、確認するための会議に参加。その中でも生徒指導のあり方が全員統一されているか確認し合う。 2. 各クラス、レベルごとの会議:授業の進め方がミーティング時に話された当校の方針に沿っているか、クラスの中で進め方に違いはないかなど確認したり、アドバイスしたりする。 3. 実際に授業を教務主任がオブザーブし、内容、進め方、生徒指導が適当であり、正しくあるか確認し、不適当と思われる部分はフィードバックすることで改善を促すアドバイスがある。 ④第1回目、敬語についてを始めたし、その後、初級、中級、上級と3つのレベルに分け、文法項目を各自研究し、クラス又はレベル単位で発表し合い、内容について全員で意見を出し合い、さらなるレベルアップを図る。	①平成21年4月、10月に計4時間 ②学期末、学期中、各1回×4学期、計8回、1回2時間 ③平成21年度中に各人につき平均6時間、計18時間	1. 同じ学級内での教育、指導方法には統一した見解がなければならないので、一定期間に(少なくとも3ヵ月に1度は)確認する研修が必要だ。 2. 重要文型についての導入からの展開については、研修の中で、よりよいポイントで理解させる方法をみつけた話し合うことが重要。 3. 学習だけでなく、生活における指導の方法。 4. 長く継続して学習してもらうためにはどうしたらいいのか。
355	30	6	2	①講師スタッフ全体会議 ・教育方針(学生指導のあり方)、授業の進め方を確認する。 ②各クラスの会議 ・授業の進め方が学校の方針に合っているかどうか確認する。 ③教務主任による授業のオブザーブ。 ④講師の勉強会。	①年2回、計4時間 ②年8回、計16時間 ③年6日間、計18時間 ④年1回、2時間	講師の間でお互いの授業を観察し、フィードバックを行う。
356	45	6	1	1. 定期的に教務全体で行われる勉強会 ・課題が各自に与えられ(主に文法項目)レポートにまとめ、その項目が該当するレベルのミーティング時に発表。出席者による質疑応答が行われる。 2. 担当レベルごとの授業を進めるためのミーティング ・カリキュラムに促した学校方針に沿った授業をするために、学期前に研修、また学期中にも定期的に授業方法に問題がないかミーティングを行う。 3. 教務スタッフによる授業オブザーブ ・授業を担当する講全員の授業をオブザーブしクラス運営に問題がないか、授業内容や進め方などチェックし、授業後、改善のためのフィードバックを個別に行う。	1. 学期毎の休み(夏休み等)に各レベルそれぞれ2時間前後 2. 学期末、学期中、各1回×4学期、計8回、1回2時間 3. 担当クラス数×90分×4学期(オブザーブ)+30分(フィードバック)	新しい第2言語修得理論に基づく効果があると認められた教授法、テキストなど、新しい知識を吸収するための研修があればと思います。旧態依然とした方法で化石化していくことを恐れます。
357	47	1.5	2	①各学期毎に教務スタッフと講師で指導方針や授業の進め方を確認する研究会(全体)。 ②レベル別研修 ・学生のレベル毎にそれぞれの担当講師が集まり、授業を進める上で守るべきルールや注意すべき点を研修する。プラス文法項目の勉強会も行う。 ③クラス別研修 ・クラス毎に担当講師が集まり、学生の学習状況を確認した上で個々に適切な対応ができるよう指導を受ける。 ④オブザーブ制 ・講師個人のレベルアップのため、実際の授業をオブザーブされ、指導を受ける。	①全体会は年2回(4月、10月)1回、2時間 ②レベル別研修は都度 ③クラス別研修は3ヵ月で2回(年8回)、1回2時間 ④オブザーブ制は3ヵ月で1回(90分~180分)~2回	初級~中級~上級と進む中で、各文法を母語話者として理解はしていても、初級ならこまめに!ここが大切!等、程度に迷うことが多々あるので、文法勉強会を色々な機関でも実施してほしい。様々な方面から勉強することによって引き出しを増やし自身のレベルアップを図りたい。
358	30	6	2	①講師、教務全員参加のミーティング ・教育方針、授業の進め方、生徒への指導等に関する確認。 ②クラスミーティング(レベル別ミーティング) ・レベル別カリキュラム、進め方の確認を行い、クラスの中でやり方などを合わせるようにする。 ③オブザーブとフィードバック ・教務主任が授業をオブザーブし、授業の進め方や内容等を確認、その後改善点などアドバイスももらう。 ④勉強会 ・自分が担当するレベルの文型などを各自でまとめ同じレベルのクラスを受け持つ先生方と発表し合う。	①全体ミーティング、年2回、計4時間程度 ②クラスミーティング、年8回(学期に2回)、計16時間 ③オブザーブフィードバック、毎学期1クラス1回(年7回)、計12時間程度 ④勉強会、2010年1回、2時間	・教材研究。 ・学生への指導方法について。
359	31	3.8	2	①初級教授法 ・(「みんなの日本語」各課、導入~口頭練習、会話、問題のやり方) ②授業見学 ・(他の教師による実際の授業の見学) ③授業チェック (実際の授業を教務課にチェックしてもらう)	①毎月第1土曜日、90分 ②1回(採用後2年目)、50分 ③年2回、50分	・初級教授法。 ・初級でできる日本事情。
360	39	8	1	①初級教授法 ②教材研究(コースデザインと補助教材を含む) ③授業見学(フィードバックを含む)	①月1回×1~2時間程度/1年 ②月1回×1~2時間程度/半年 ③月2回×1~2時間程度/2年	①教授法(初級だけではなく段階に合わせて) ②教材研究(日留試験対策とのつながりなど) ③日本事情(日留試験対策とのつながりなど) ④クラス運営 ⑤進路指導のための情報
361	35	5	2	・実際の授業を見ていただく(コメント(1回1コマ/通産3~4回ほど)) ・実際の授業を見せていただく(コメント(1回1コマ/1回)) ・テキスト形式で導入、練習などを10~15人程度で行う(1回、1~2時間) 初・中級の内容を年に10回ほど。	・1回1時間を月に1度×5年 ・5年間で3、4回ほど	・デモレッスン→フィードバックをいただいて今後に生かしていく。 ・ベテランの教師による授業を見学する。 ・学校間で交流し、様々な教授法を習得する。
362	62	19	2	①ベテラン教師の授業を見学 ②ベテラン教師による授業見学及びフィードバック ③初・中・上級教授法勉強会	①1回1時間×3回、2年間 ②1回1時間×4回、2年間 ③1回1時間×2回/月、3、4年間	①教授法 ・初級を基本としつつ、初級・中級・上級それぞれに特化した教え方。 ②教材研究 ・教材研究が不十分だと教授法も獲得できない。 ③多様なニーズに対応する教え方及びカリキュラム ④在日外国人を巡る情勢の研究 ⑤日本事情の研究 ⑥コンピューター技術の習得 ・教材、テスト作成は勿論のこと、いかに情報を得るかについて。
363	41	17	1	①新規採用時に教授法取得のための研修 ②先輩教師に授業を見てもらい評価してもらう研修 ③日振協主催の研修会への参加 ④教授法の検討	①2週間、2時間 ②3回位、1.5時間 ③3~4回、2~3時間 ④1ヵ月に1回、1時間	・教材研究。 ・留学試験対策に関する研修。 ・大学院進学希望者への指導方法に関する研修。
364	43	2	2	①初級教授法、中級教授法 ・教科書に沿って進め方を数名で評価しあう。 ②教壇実習 ・実際の授業を評価してもらう。 ③個人的にセミナー・フォーラムに参加する	①②合わせ17~20時間程度。	教授法のみではなく、進路のための進路指導方法や留学生の進路状況等のセミナーがあれば参加したい。 「日本語教育」と一言で言っても、教師に求められることは多様で、時には高校教師以上だと感じることもある。
365	37	0.7	2	①常勤の先生方に私の授業を見学していただき、フィードバックをいただきました。 ②月に1度、「初級教授法」に関する勉強会、ロールプレイング ③短期の有料研修(初級教授法、導入~練習法)	①年に2度、各1時間ずつ。 ②月に1度、各1時間30分ずつ。 ③年4回のうち2回参加、各1時間ずつ。	初級~上級各レベルに渡って、新人~ベテラン先生までが醸成する実践的な研修(ロールプレイング、勉強会)が継続的に必要だと思う。各人が自分の持っているものを明かし、活発に意見交換、改善案、提案が行われるのが理想だと思います。(Give & Takeの精神で!)ベテランの方は新人を育て、新人ははやく教えられる立場になることをめざしてスキルの向上に打ち込める環境を作ることが大切だと思います。
366	31	1	2	①専任講師による授業チェック(教案、授業内容フィードバック) ②授業見学(専任の授業を見学しレポートを提出) ③複数の先生方で集まり、デモレッスン(みんなの日本語などの初級教授法) ④Japan Online School による通信教育(プライベートレッスン)	①半期に1回、授業1コマとその後フィードバック30分程度 ②半期に1回、授業1コマを見学(50分) ③月に1回、1.5時間 ④2010年11月10日(土)11月20日(土) 各1回20分程度	対留学生の進路指導の方法(専門学校、大学、大学院)それぞれの特色とそれに合った指導法を情報交換できたらいいと思います。
367	36	6	2	①教授法向上のための研修 ②日本語教師試験への対策 ③プライベートレッスンの教授法	①月1回、1時間半程度 ②1日のみ2時間程度 ③通信30時間程度	・日本と各国の関係に就いて(例、日系人の現状、日本進出企業の現状)EPA etc ・メディアリテラシー
368	32	5	1	1. 日本語学校教育研究大会(中級読解教材の作成、ビジネス日本語のコミュニケーション・スキル向上を目的とした上級学習者向け教材開発、初級の発音指導とカタカナ学習の方法) 2. 研究協議会(「興味読み」を留学生のアカデミックライティング力養成に生かす試み) 3. 本校における「初級教授法」、「中級教授法」、「2級機能語文」勉強会に参加。	1. 2008年、5時間 2. 2010年、3時間 3. 2008~2010年:月1回、1時間	・テストの評価法について(テスト作成における妥当性について) ・中・上級における会話教材の作成。 ・総合科目(日本語試験)の指導方法。 ・日本語教師のアクション・リサーチについて。
369	48	1	1	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 ・外国人児童生徒の現状と課題 ・外国人児童生徒の言語・文化的背景と日本語教育 ・日本語能力の把握と日本語指導 ・学校における日本語教育プログラム ・日本語初期指導の留意点	7月26日~29日(4日間)	・岩手県は日本語教育を設置している学校が少ないので、他県、他校との実践交流と指導法についての具体的な交流。 ・大学や国際交流協会等とのボランティア等の活用の方や実際の取り組み紹介。 ・拠点校となって近くの学校へ専任教師が出むく等の現代的な実践や事例紹介など。
370	61	9	2	・受講者の目的が多様化してきているので、それぞれの目的に対応するための研修。 ・日本語文法と国文法(学校文法)との間に、いかに整合性をもたせるかの研修。 例えば、日本(古典)文学、日本史、日本文化を学ぼうとしている人にとって文法(資料)は重要であるが、古典文法(古文)をどのように教えるかを研修することが必要。(今の日本語文法では教えられない。)		
371	62	7	3	①言語学、日本語学、日本語史、教授法、語彙、文法、音声、記述(作文)、敬語表現、実践 ②学習教材、教具等の活用法、学習指導のための導入法等 ③学習教材、教具等の活用法、学習指導のための導入法等	①平成19年7月~3月、10回、20時間 ②平成20年7月~11月、4回、12時間 ③平成21年6月~11月、4回、12時間	研修生が多く学びに来ているので、仕事の内容に応じた指導が必要だと思っています。これに対応するテキストも必要です。
372	59	1	3	ボランティア日本語教師養成講座	平成22年7月、9月、11月の3回、計9時間	日本語文法をわかりやすく教える方法。
373	32	3	3			・教材の作り方。 ・ボランティアに対する初級、中級、上級別の教え方。 ・外国への理解、外国語について(簡単なあいさつetc)
374	58	6	3	・日本語ボランティア教師養成講座(20時間+4時間)三重大学 ・ボランティア日本語教師養成講座(20時間)(久居国際交流協会)日本語教育に関する歴史、教授法、文法、文字、語彙、等 ・日本語ボランティア教師のための実践的講座(久居国際交流協会)18時間位、教材や指導法に関する教育	・トータルで62時間程度。 ・2007年~2008年、2008年~2010年の期間中、月1×10回/年3回、年4回とばらばらです。	
375	41	1	3	日本語ボランティア養成講座(初級編、上級編)	3時間ずつ、各1回	・書き順で間違っず覚えやすい漢字について。 ・しばらく、ちよつと、少し…のように紛らわしい表現についての説明の仕方。 ・概念的なことや具体的な質問への対応方法などについて半日単位で何度か設定して欲しいです。
376	70	20	3	①「みんなの日本語」を教材としたもの具体的な教え方 ②「新日本語の基礎」を教材としたもの 三重大学留学生センター、田中よね氏、氏原康子氏、松本一子氏 ・中沢信子氏に依る講義と基本的教授法について ・赤塚先生(日本語センター)に依る日本語の教え方	1ヵ月間 表現法10回 表現法1回、2時間×4回=8時間	

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
377	46	9	1	①学内研修:多種多 ②日振協の研修 ③他校での研修:江副式	①学内の時間は9年間分、数えられません。 ②5日間(3回分) ③4日間(3回分)	・20代、30代を中心に自己研鑽の研修が必要だと思います。 ・パソコンなどのITを使った授業。(入力方法などの初歩的なものではない)
378	30	5.5	1	(正式に非常勤として採用される前) ①授業見学。模擬授業(他の講師2~4名を生徒役として見学した授業の再現や、一つの文法の導入から応用までを実践) (採用後) ②新人主任研修(日振協) ③教授法に関する講義形式の研修 ④教師同士で同じ文法項目の模擬授業	①3ヵ月、週2日、1日6時間程度(その後、正式に非常勤として採用) ②20時間 ③年1回程度、半日 ④不定期	・自己成長できる教師の育成 ・模擬授業などで技術的な面についての指摘、指導をするのよいが、やはり自己成長する力を身につけることも大事である。見学の際、見学する人、される人、お互いにチェックシートを持ち、授業後にすり合わせる。同じ位の経験年数の教師同士で、教材開発や指導法の研究をするなどというのでもいいのではないだろうか。 ・日本語教育や所属機関の体制の理解 ・「学生と教師」と、どうしても閉鎖的になりがちな教師という仕事なので、教壇に立つ前、或いは立った後もよいが、日本語教師というものが、ひとつの職業として、どのような背景をもとに成り立っているのかということを確認するべきである。そうすれば、自分の教師としてのピリフに多かれ少なかれ変化がでるのではないかと。 方法に関しては、具体的にどういうやり方がよいかは難しいが、さしあたり外部団体の研修への参加や外部講師を呼んで講義形式を取ることなどが考えられる。
379	28	6	1	所属している機関で使っている教授法に関する研修。	教壇に立つ前に3ヵ月程度、授業見学、模擬授業など採用後も機会がある毎に。	より学生が理解しやすい授業をするための研修はもちろんのこと、学生の心の問題にも向き合うことができるようになるための研修の機会があればいいと思います。心理的な悩みが原因で勉強の継続が困難になっている学生が多くなっているように感じるので。
380	39	15	1			・チームティーチングの手法 ・学校マネージメント ・コーチング
381	28	3	1	①授業見学、模擬授業、教案指導等 ②模擬授業+話し合い(初級担当研修)	①約3ヵ月(週3日) ②年1、2回	先生方の前で模擬授業を行い、その方法について話し合う研修は、やはりいつまでも必要なことだと思います。(初級は特に)教師を続けられ続けるほど、自分の作る授業に何かせがたいく様に感じます。そんな時、他の先生方の模擬授業を見たり、自らのせを指摘してもらったりすることで、新たな授業法を身につけることができます。
382	56	25	2	①文法、語彙、聴解教育など、分野別の教え方 ②漢字教育研修 ③の理念と、実践に関する研究会出席 ④実用日本語初級(アクションジャパニーズ)研修 ⑤実用日本語中級研修 ⑥実用日本語重箱文法 ⑦発音矯正のための研修 ⑧生き生きとした授業一人一人のための研修	①初級・中級別に、それぞれ2~3時間 ②1日 ③1日 ④半日 ⑤約3時間 ⑥約4時間 ⑦約5時間 ⑧約4時間	・初級から始め、上級、超級へとつながるレベル横断的な作文教育に関する研修。1年~2年間にうちに、どのようなスケジュールでステップアップしながら、日本語の文章を書けるようになるか。 ・留学経験や能力試験に挑戦しながら、なおかつ会話を伸ばす授業はどのようにして可能か。 ・学生の対話力、コミュニケーション能力など他者との関係を深めるための能力を引き出す指導の仕方や、教師自身の話す能力アップのための研修。
383	33	0.7	2	①授業見学 ②再現授業 ③模擬授業 ④教師像や心構えに関して	3ヵ月間 ①4コマ、180分×9回(内、初級7回、中級2回) ②45分×2回 ③45分×2回 ④1回	・新しい指導理論 ・指導法に関する他教師との交流 ・著作権等に関する法的研修 ・セキュリティ管理(個人情報、電子データ)の扱い
384	25	3	2	所属機関である日本語学校における研修 ①教材の扱い方(教科書の教え方)についての研修で、実際にクラスに入り授業を見学。気づいたことなどをレポートにまとめ提出。 ②模擬授業 ・教師を学生にみたくての模擬授業	非常勤講師となる前に3ヵ月間研修生として研修 ①授業見学:10日(1日8時間程度) ②模擬授業:3日	・日本語学校の経営や権利、入国管理などについての知識がほしい。また、学生の出身国の事情も勉強できれば学生の指導に役立つと思う。 ・授業のくみ立てや効果的な練習方法、技術的な研修も必要だと思う。
385	44	7	2	①授業見学 ②模擬授業実習 ③教授法等についての研修会	①就職後1週間、12時間程度 ②就職後1週間、3時間程度 ③不定期、10時間程度	・外国人留学生の考え方、価値観、ニーズの変化や教室外での彼らの置かれている状況などについて知る機会がもっとあればと思います。 ・また、そうしたことも含めて、教師間での情報交換の場を、より増やしていくことも必要なのではないでしょうか。
386	42	3	2	①就業前研修:授業見学、模擬授業 ②就業前研修:授業見学、模擬授業 ③中級研修:文法、文字、語彙、聴解 ④新実用日本語初級研修	①1ヵ月、週5日×5時間 ②3日間、3日×7時間 ③3日間、3日×3時間 ④3日間、3日×3時間	・ステップアップ、レベルアップのための研修。 ・教科書、参考書の使い方。 ・グループ活動、エンカウンターエクササイズ。 ・心理学、カウンセリング。 ・クラス運営。
387	55	3	3	ボランティア養成講座(協会内)		①母国へ帰って日本企業に就職出来るように日本で日本語検定の1級を取得する人への支援知識としてボランティアが勉強する内容のカリキュラムを組んでほしい。 ②外国人の人達が日本でボランティア活動を希望している場合のやり方(?)を学びたい。
388	53	19	3	日本語教室におけるボランティアとしての教え方ノウハウ	3日間、24時間	・初めて日本語に接する方への指導方法。 ・外国人に対しての接し方。 ・年齢、性別、職業、学習目的にどう合わせて指導したらよいか。 ・1回の指導量、時間はどの位がよいか。
389	71	7	3	1. 外国人に対する心構え 2. 会話の基本 3. 在日外国人の現状等	7回(20時間位)	1. 「マンツーマン」による教育の基本。 2. 複数人の同時教育の要点等。 3. 「2」項に関し、日本語レベルの差異が大きい場合の留意事項。
390	74	8	3	・日本語検定試験受験者への日本語教育は行っていない。 ・日本への永住者・希望者等への生活支援が主な対応になっている。 ・従って、日本語についても日常会話が主体で、テキストの日本語は可成り異なったセンテンスで教材はスティーブの広告等が主になっている。 ・日本語は文章で書かれた言葉と話し言葉に大分大きな違いがあるのが教える際に難しい点である。		
391	62	4	3			日本語の指導法。
392	65	2	2	・日本語教室の講師の講習(立正大学の講師による)	1日、3時間	生徒のレベルに合わせた教え方 ・コミュニケーション(ボディランゲージ、他言語を含む) ・会話 ・読み ・書き
393	41	5	3	ごく簡単な初心者のための研修	4~5時間	ボランティアとしてですが、これから自分で参考書などを見て勉強していきたいとおもいます。
394	62	4	3	日本語教師の心がまえについて	2回	
395	59	4.5	3	日本語教室にて指導方法及び教え方の教育講習	研修は2日間、講習会は6時間	・対人間の話題性を盛り入れる。 ・ワイドワイド的な研修内容もよし。 ・教科書を中心ではなく、時勢がらに合う教え方を。
396	51	9	3	日本語教育学会主催の実習講座	1989年5月~1990年2月	①教材、教具の作成と使い方について ②中級以上の生教材(新聞・映像など)の選び方について ③国籍による学生の指導上の注意点について ④学生の目的別日本語学習カリキュラムの作成方法 ・進学(大学、大学院、専門学校) ・ビジネス(日本企業就職) ・介護
397	39	10	2	ワークショップのようなかたちで、グループ別に教室活動の具体例などを中心にディスカッションを行った。 その後、全体でグループ毎の意見について話し合い教室での問題点などにも目を向けた「教師力の向上」の必要性を全体で認識した。	学期ごとに1回2時間~3時間程度。	日本語教育だけでなく、教育全体において抱えている問題点の共有と、解決に向けた様々な対応法を話し合うことができればと思います。そうした場において、教師の指導力の向上のための研修が行われれば教育全体が活性化するのはいいと思います。
398	44	15	1	・日本語発音指導(「日本語発音レッスン」を使って) ・ビアレスポンスを利用した作文指導	各1日、3時間/1回	コミュニケーションツールとしての日本語を伸ばす教室活動のいろいろ。
399	42	18	2	①日本語教育学会 日本語教育研究会実習課程 ②日本語教育学会 日本語教育研究会実践研究コース ③立正大学大学院 修士課程(日本語教育学)	①1995年4月~1996年3月 ②1998年10月~1999年3月 ③1999年4月~2001年3月	学校間の垣根を越えたリーダ研修のようなもの。
400	39	10	2	グループワーク、ペアワークを利用し、学生が積極的(受け身ではなく)に授業に参加するようなクラス運営の仕方について。	1日4時間	・クラス内で方の差がある場合の授業の進め方について。 ・母語の影響による発音の直し方について。 ・学校で学ぶ日本語と生活(学校外)で使われている日本語が違うという声をよく聞くので、その差を小さくできるような授業での取り組みについて。
401	48	10	2	文法、音声、歴史、教授法、外国語等実習	6ヵ月、340時間以上(養成)	
402	42	12	2			・色々な教授法、指導法について実際に体験できるような内容。 ・慣用例をどのように直していかに考える。 ・教師自身の言語感覚(語感やニュアンスなど使用時の感覚)を見つめ直し意識する。 ※規範的なことではなく、実際に使用する時の感覚です。世代差、地域差、性差など影響してくると思います。 例えば「〜わ」(女性が使うもの)や「一応東大卒です」と言われた時の印象など。
403	48	20	2	・教授法 ・異文化コミュニケーション ・語彙 ・日本語文法 ・ビジネス日本語	それぞれ週1回、1時間半×半年	・技能別(聴、読、話、書)の力の伸ばし方。 ・ノローゼになった学生への対応の仕方。
404	61	21	2	・講演会 ・グループ別自由研究と発表	1.5時間/W×15年間	・教育理念や方法の進化。 ・新しい方法、道具、教材、テキスト。 ・新能力検定試験について。
405	63	23	2	・音声学 ・韓国語母語話者の発音矯正 ・AJALTの研修	・ラボセンター(30時間) ・東京日本語学校(6時間)	・初級から中級への橋渡しとしての中級読解をどのように進めていくか。
406	72	10	2			
407	68	8	3	日本語教師海外ボランティア研修 初級クラスを対象とした教授法、日本語文法等についての研修	1週間 48時間	1.日本語教師能力検定取得のための研修 2.日本語教育現場への積極的参加 3.日本語学習者との学習現場以外の交流
408	80	10	3	「みんなの日本語」に基づいて初級1~2	2009(H20)2010(H21)5/14~10/1 計10回 14:30~16:00	伊東市のような地方都市では、日本語教育などという大変なものでなく、一緒に学び一緒にたのしみ、ファミリー寺子屋でいいと思います。
409	50	2	3	みんなの日本語初級 I 新人講習	2009年5月14日~2010年1月21日 計15回	
410	69	10	3	内容「みんなの日本語」にもとづいて初級 I、II 毎月1回(月初め)教師間のmeeting実施(情報交換)	2009年(平成21年)5/14~10/1 計10回 14:30~16:00	日本在住の外国人が日本の生活を楽めるような場を作り出すことが重要である。 日本語を教える上でテクニックだけでなく、生活のバックグラウンドを教えることを考えてみる。 英語圏、非英語圏、漢字圏に教えるテキストは違う。 各々の外国圏に合った人のテキストの開発を望む。 初級~上級まで一貫した教育で使用出来るテキスト(モデル)を求める。
411	67	2	3	みんなの日本語初級 I 新人講習	2009年5月14日~2010年1月21日 計15回 14:30~16:00	
412	38	2	3	①みんなの日本語 I、II ②みんなの日本語 I 新人研修	①2009年(H21)5/15~10/1 10回 14:30~16:00 ②2010年(H22)10/20~1/21 5回 14:30~16:00	
413	38	2	3	みんなの日本語初級 I 新人講習	2009年5月14日~2010年1月21日 計15回 14:30~16:30	
414	67	20	3	「みんなの日本語」I、II	10時間	
415	38	7	1	全国日本語教師研修(言語の教育とコミュニケーション教育についての講演、ワークショップ他)	2010年1月9日、10日	・中級以上の授業法、指導法 ・日本語教師の日本語力評価 ・以前(O年前)と比べて変化してきた指導法や授業内容など
416	31	7	1	①日本語教育振興協会 主催 新任主任教員 研修 ②全国日本語教師 研修	①H20.6.19~21 ②H22.1.9~10	・教師の育て方 ・カウンセリング関係 ・具体的な授業方法
417	40	15	3	日本語文法に関する研修	5日 10時間	・異文化についての理解と共に日本文化について、よく理解していることが必要。 ・この10年間で、入国に日本語を習う外国人(主として中国人)の文化低度が高くなってきているように感じるので、「カウンセリングの技術」が必要になると思います。
418	38	10	3	経験者の体験談	2時間	実力の向上
419	61	7	2			
420	45	12	2			
421	62	27	2			
422	30	4	2			

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答) ※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
497	38	8	2	①AJALT新人研修(対象別教員、初級日本語の教え方など) ②ACTFL OPI 試験官養成ワークショップ ③日本語教育学会夏季集中研修(ピラーニング) ※大学院進学(2007年9月～2010年3月)	①100時間程度(2002年4月～9月) ②4日間(2005年12月) ③2日間(2009年7月)	①カリキュラム作成(ニーズ調査から具体的なプログラム作成まで) ②テスト作成・評価 ③教室環境デザイン ④教材開発(ITも含む) ⑤カウンセリング・トレーニング ⑥中級～上級学習者に対する授業提案
498	55	2	2	(1)「新人会員研修AJALT 内容)初級の授業:CEFRとCando:中・上級BJJの教え方:地域日本語支援:「かんじだいすき」: 年少者に対する授業:JYPを使った教え方:技術研修生授業:個人授業の実践:BP配偶者に対する授業:RHQ支援センター IT:OPI 等。 (2)AJALT 定例研究会・分科会	(1)2010年4月1日～7月22日(AJALT) 100時間 (2)2010年9月～現在まで。毎月2回。(AJALT) 14時間(1回2時間×7 ※12月は1回)	・AJALTでの研修は、多岐にわたり、また豊富な経験と実績に裏付けされたものなので、大変有益であり、役立つもので、満足している。 ・新人研修が終了し、現場での仕事がスタートしたあとも、チーム内やスタッフの様々なフォロー、情報の共有と知恵の伝承があり、行き届いたサポートのすごさに驚いた。 ・上記のこと以外で、ということならば、細かいことであるが、板書の仕方などについて(他の細かい点も)授業参観をさせてもらえると嬉しい。
499	54	7	2	①日本語の構造と機能 ②初級者、既習者、年少者など多様な学習者に対する授業について(模擬授業を含む) ③クラス授業と個人授業 ④教師の役割 ⑤地域日本語支援 ⑥ITの活用	4ヶ月 100時間	①教材作成に必要なインターネットの知識と技術 ②学習者の評価 ③多様な対象に応じた教え方、実践例、授業の工夫等(特に年少者、地域の生活者に対する指導について)
500	49	3	2	①AJALT新人会員研修 ②AJALT主催 第24回日本語教師のための公開研修講座 ③「日本語教育は、コミュニティ構築を実現できるのか～社会的文化的視点を取り入れた実践から～」 ④AJALT主催 公立小・中学校在籍外国人児童・生徒の支援者を対象とする講座	①2008年4月～7月中頃(約128時間:4H×4W×3.5m) ②2008年6月28日、29日(1日半、計9時間) ③2010年8月21日(7時間)	①(学生や長期滞在が予定されるビジネスパーソンの)初・中級文法、表現のわかりやすく効果的な教え方の研修 ②地域の外国人家族向けの「文法ありき」ではない、すぐに使えるやさしい日本語の教え方の研修 ③外国人児童、生徒向けの、各教科の上手な教え方の研修 ④ネットを使った授業の研修(ネットを生かして効果的な授業をするための方法を学ぶ研修) ⑤スクリーンを使用した効果的な会話練習 ⑥メールによる作文添削 ⑦現在、どの分野の日本語教師が求められているのか、また、その日本語教師の要件は何かなど、情報を提供してくれるような研修
501	51	8	2	①AJALT新人会員研修 対象別(ビジネス関係者、研修生、年少者など)教え方、Japanese for Busy People 指導法実習、地域日本語教育支援 など ②AJALT定例会員研修 外部講師講演、実践報告、分科会研究活動 など ③AJALT「追いつきミーティング」 コミュニケーションのための日本語教育 ワークショップ	①2007年4月～7月 100時間 ②2007年4月～ 月2回 各2時間 ③2009年11月～12月 8時間	・第二言語習得についての最新の研究に触れる機会(講演など) ・指導法ブラッシュアップのための実習
502	63	25	2	研修目的 ①日本語教師としての知識・教養・技術を向上させる ②OPI試験官を養成する 研修内容 a.所属機関の計画・主催する多様な研修 b.所属機関外の研究活動 ②a.OPI試験官養成講座 b.資格取得後のブラッシュアップ講座・研究活動	①a.1986年4月～現在 約1000時間 b.1986年～現在 約100時間 ②a.2001年12月 4日間32時間 b.2003年2月～現在 約80時間	自分自身の発信力(口頭、文章)の向上をめざす研修 ・教員内容を自分自身でどうこなしているかを自覚し、修正、研鑽していく 学習困難者のための日本語教育の方法、あり方を考える研修 ・年齢(高齢、年少)のために反応、定着、理屈がきかない場合の効果的教授法 ・学習者の背景(国籍、過去の学習スタイル)と対応を考える ・語学が得意ではない学習者への効果的教授法
503	43	15	2	①日本語教育の学習環境とリソースに関する調査研究(国立国語研究所) ②日本語教育コーディネーター養成講座(AJALT)	①3ヵ月 2005年1月～3月 ②全12時間 2002年2月	・非漢字圏学習者への漢字指導方法 ・中級からの会話指導 ・学習者の背景や環境に合わせた自律学習指導方法 ・教師のためのリソース活用術 ・発音 アクセント指導のコツ ・学習者の精神的負担を取りのぞくための方法 ・専門分野ごとの学習指導方法(介護、看護など)
504	29	5	1	①日振協専門能力開発研修 外国人児童生徒に対する日本語教育についてシンポジウムや分科会に参加 ②長沼スクールブラッシュアップセミナー 大学院進学のための日本語指導について意見交換、グループワーク	①2009年9月26日 12:30～17:20 ②2010年8月19日 9:10～16:45	実際に指導に役立つ研修が必要(机上の空論はもうたくさん) 具体的には ・非漢字圏の学生に対する漢字指導 ・初級の会話練習の運営方法 ・大学院進学に対する日本語指導 ・語学アップのための指導法 ・作文力アップのための指導法 ・中級以上のクラスでのモチベーションコントロール など 明日使える指導法を意見交換したい
505	28	1	2	特になし		中級レベル以降の指導法について (中級レベルに対応した書籍があまりないので、研修があったらうれしいと思います)
506	28	6	1	①東京日本語学校で行われた「日本語教師夏季集中セミナー」の「再び、漢字の指導を考える」 ②平成21年度「文化庁日本語教育大会」 内容:『生活日本語』について考える	①1日 9:20～16:45 ②1日 10:00～17:30	実践的な指導法の研修はとても役に立ちます。特に、色々な学校の先生方が実際に行っている指導を伺うことができる研修は、とても実感が あり、新たな指導方法を見出すヒントが多量に得られ、生かされます。 学校同士が情報交換できるような研修にたくさん参加したいです。私の場合、特に非漢字圏の漢字指導について、日々試行錯誤しているので、 このような研修に積極的に参加したいです。
507	30	1.5	1	特になし		多岐にわたり様々な能力が必要なので一概に言えず、教授法はもちろん、これだけでなく就職活動の指導や、現在の海外の日系企業の動向や 国内企業のリクルートに関して、様々な分野の研修が必要だとは思いますが、可能かどうかはわかりません。 エクセルのマクロ(VBA)プログラミングも同様で必要だとは思いますが、扱える人はおらず、無駄に事務的処理時間を費やしている。
508	46	2	1	①中級クラス教材のすすめ方 ②新日本語能力試験対策について	①5日間 10時間 ②4日間 12時間	学習者にわかり易い指導法について、経験するしかない状況かもしれませんが、具体例等があれば受講したい。
509	31	3	2	①教授のコツ(新人の頃)。 ②新テキストの教え方説明。 ③「みんなの日本語」「ニューアプローチ」教え方のコツ、教えづらいところをみんながどう教えて いるか話し合う。 ④留学試験、能力試験の新システム勉強会。	①②各1回 ③④各4、5回 1回3時間程度	・留学試験 記述問題の指導法 ・大学、専門学校入試の小論文対策
510	57	3	2	①日本語教育(中級)教授法研修 ②ビジネス日本語(全般)研修 ③日能試・留試改正に伴う勉強会	①2008年8月・6時間 ②2009年4月～5月・20時間 ③2010年4月・6時間	・ロールプレイ、プロジェクトワークなどグループ活動の教育テクニック。
511	30	3	1	・新任教師の際、基本的な授業の進め方や教材の扱い方、学生からよく質問が出たり、学生 が理解しにくい文法項目の教授法 etc.について、先輩講師の方が勉強会を設けてくださった。 ・留学試験や日本語能力試験の出題傾向と対策について。 ・留学試験、日本語能力試験が新しく切り替わる際に、その前後で勉強会を設けてくださ った。 ・新しいテキストの進め方についての勉強会。	平日の勤務時間終了後や、土曜・日曜の休講日。又は 学生の学期休み期間など。	日本語業界全体としての学習者の動向とあわせ、地域に密着した形で学習者のニーズをとらえること。
512	45	7	2	①進学指導方法 ②使用教科書を用いた指導方法 ③教授法指導 ④教材(テスト含む)作成	①約5時間 ②約2日 ③約2日 ④約3日	・留学試験の項目を指導する研修 ・能力試験の項目を指導する研修 ・漢字指導(非漢字圏の学習者) ・来日した外国人の子供(小・中学生)に対する指導 ・会社員(ビジネス目的で来日した者)に対する指導
513	44	8	2	2010年第1回日本語留学試験「日本語」が改定されるに先立ち、記述対策のワークショップを 行った。 まず、独立行政法人日本学生支援機構から発表された記述の試験問題サンプルで事前に学 生が書いたものをワークショップ参加者が新しい採点基準で採点した。そして、採点結果の得 点にどれくらい幅があるかを確認した上で採点上の問題点を洗い出した。 さらに、これから出題されるであろう問題のタイプ(従来タイプとの違い)と、その指導上の留意 点を各参加者の間で共有した。	ワークショップ自体は2010年4月3日の午前中3時間程 度。ただし、いわゆる叩き台としての資料作成のために 相当時間を要した。	「進学目的」の日本語学校では、以下のような研修が必要と考える。 ①中級レベルにおける日常生活のための日本語指導と並行した日本語留学試験・日本語能力試験対策。 ②非漢字圏の学生に対する日本語留学試験・日本語能力試験の読解指導。 ③入試面接において的確に回答できる会話指導。
514	54	9	2	1)A.早稲田大学 科目等履修生 B.早稲田大学院 日本語教育研究科 修了 2)東京言語学ポラリテ 言語学講座 1.5年 計3科目 3)横浜国際教育学院 学習会(学内) 試験内容変更に対応するための学習会 など 4)学会	1)A.1年 B.2年 2)1年半 1.5H×15回×4→3科目 3)4時間×5～6回 4)日本語教育学会 言語学会など	・新しい傾向と指導方法の研究 例え、OPI、シャドーイング、新しい言語感(認知文法など) ・N1～5に対応する語彙や文法項目の研究 ・日本語教育に関する様々な動向 ・新試験対策
515	33	約10	1			非漢字圏の学生に対する漢字教育時間の充実。
516	32	10	1	①模擬授業 ②導入の仕方 ③絵のかき方 ④教科書の扱い方	①1ヶ月間 8時間 ②2週間 2時間 ③1週間 1時間 ④2週間 6時間	できるだけ多くの経験豊富な教師の授業を見学し、授業の進め方やテキストの扱い方、学生との距離感等を学べると良いと思う。 また、逆に模擬授業を行い、経験豊富な教師が見学に入り、的確なアドバイスをもらえると良いと思う。 模擬授業は何度も繰り返し行い、その都度、教養も含め、指導してもらいたいと思う。
517	58	21	2	①日本語教授法 「みんなの日本語」を使用して(スリーエーネットワーク)。 ②日本語・横浜フォーラム(教授法) ③職場の勉強会(教授法・留学試験対策)	①3ヵ月(週1回、2時間) ②アメリカ、カナダ+大学、不定期、20時間位 ③15時間位	・多様な目的の学習者への教授法 例え、進学目的ではない学生に対して、目的を達成させる方法(就職目的の人など)。 ・進学目的でも多様化している学生への対応 ダンス、音楽の学校など。 ・コミュニケーション能力を高める方法
518	53	10	2	神田外国語大学 大学院 科目等履修生(単位取得) 「日本語教育学研究」 「言語文化研究」 「統計処理法」	1年	
519	47	11	1	アニメ・マンガと日本語教育	2009年10月 2時間	
520	39	9	1	1.教案作成方法 2.中級文型の教え方	1.約3ヵ月(36時間程度) 2.約2ヵ月(32時間程度)	
521	38	5	2	受けていない		・クラス運営 ・教室活動(ゲーム等) ・会話 ・コーチング
522	35	7	2	特になし		・聴解力を向上させる有効な指導術 ・言葉のコントロール、分かりやすい説明の仕方
523	30	5	2	①常勤の先生や非常勤の先生の授業見学。 その後、先生方とミーティングをし、質問したりアドバイスをもらったりする。 ②自分の授業を数人の先生が見学し、それぞれ意見や改善点を指摘していただき、話し合い をする。	①その学校に入ることになった数週間前に1～2時間見 学。 ②教えはじめてから1～3ヵ月。1～2週間に1度2時 間程度。	・レベルアップの為、良い教え方や情報の交換。 ・実際に自分が学生の立場になり、授業を受ける(日本語ではなく、英語や中国語などで知らない事を学ぶ体験をする)。
524	26	2	2			
525	73	14	2	日本語ボランティア養成講座(1997年・愛知県国際交流協会主催) おおよそ20回受講 ・在日外国人の日本における状況 ・在日外国人に対する法制度 ・言葉や文化の意識 ・具体的な日本語教室の作り方	3ヶ月間、毎週1回、1回4時間程度 その他、ほぼ毎年、スキルアップ研修、他国際交流協 会などとの交流	在日外国人のおかれている法制度など。
526	53	2.5	3	ボランティアのため、ありません。		自分自身の日本語の知識
527	55	3	3			文法の教え方は勉強する必要があります。私自身も法則をきかなくても「いつも使っているから」としか答えられないので申し訳ないとも思 います。 全く日本語がわからないレベルの上での対応がわからない
528	54	5	3			現場での実践の為に研修 外国籍市民の状況等の内容も必要ではあるが、実際に指導法についての研修があるといいと思います。
529	72	10	3	①愛知県国際交流協会 日本語ボランティア入門ゼミ ②E. I. 1.(日本語を教える教室)	4ヶ月くらい 40時間くらい	
530	67	3	3			・日本生まれの日本育ちの外国の子どもたちが多い。その子どもたちにも母国の言語、文化、慣習などの大切さを教えていきたい。教える側の 私たちも各国の文化や慣習を学ぶ機会が必要だと思う。 ・漢字の学習が苦手な子どもが多い。音読み訓読みの違いや意味が理解できずに丸覚えにする。子どもたちが遊び心を持って、楽しく学び、覚 える事のできる教え方や教材が欲しいと思う。 ・外国の子どもや親に対する心のケアも大切である。そのための研修が必要だと思う。
531	68	3	3	①外国人児童の援助 ②外国人児童の援助	①3時間×2日 ②6時間×6日	
532	38	1	3	なし	なし	日本語指導初心者のための研修 ・日本語指導者としてある程度必要な日本語能力を習得できるもの。 ・日本語指導初心者が、とまどいや不安に対する指導法。

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
533	63	4	3	外国人児童生徒の現状と課題 子どもへの日本語指導の方法と留意点 地域にある子どものための日本語教室の事例報告	3日間 2時間×3	研修者の国の現状と簡単な歴史
534	74	4	3	①多文化共生理解講座 ②シニアのためのボランティア理解講座 ③開かれた地域社会を目指して ④日本語を初めて学ぶ外国の子どもたちに楽しく漢字を教えた「かんじだいすき」	①2009.12.5 1回 ②2010.1.8～2.21 6回 ③2010.3.13 1回 ④2010.3.21 1回	子ども日本語教室のボランティアです。 ・どうしたら、勉強に集中させることができるのか。 ・「書き順は」との程度厳しく指導すべきか ・複数の子どもを受け持った時の対処方法(学力の差のある時) 大人日本語教室のボランティアもしています。 ・検定を受ける目的の人と日常会話の修得を目的としている人との指導方法の違い。 ・検定試験の合格をあせっている人も、日常会話が未熟な人がある。その点の指導の方法。
535	61	11	3			文法的なことと並行して、日常生活の中で使われている言葉、若者ことばなども含めて、よく耳にするような言葉の使い方や意味などを教える必要がある。
536	52	8	3	①日本語ボランティア養成講座 ②日本語ボランティア(日本語学級)で主催する研修には出来るだけ参加している。1年に3～4回。	①週一回 2時間位 半年 ②4.5時間(一回につき)	・日本語の文法(外国人から見た日本語の文法、文法語) ・理解するのに紛らわしい言葉について伝える(複数の意味があり、誤解しやすい)。 例えは、声かけのすみません、あやまる時のすみません等
537	63	10	3			その年によって学習者が変わるので、その要望に答えるようになるが、 1. 学習教材作り 2. 日常生活支援 初心者への言葉の増やし方 3. 生活に困っている人とのコミュニケーションの膨らませ方(あまり外出しない)
538	67	11	3	・日本語初めの人への学習の進め方 ・日常生活をするための日本語 ・文法的なこと(助詞・形容詞等) ・日本語教室(ボランティアによる)のあり方 ・多文化共生社会のために ・ことばと文化	1回 2～3時間×年2～3回×10年	
539	73	10	3	川崎市日本語ボランティア入門講座 8～10月位 (各種)入門編 外国人向け実用会話 生活支援など ・文化審議会、国際分科会のカリキュラム等 ・川崎市国際交流センターの講座等	1年に2～3回の研修会、ブラッシュアップ研修会等に 参加中	
540	73	4	3	①RKK日本語指導法講習会 「みんなの日本語」初級を中心に、文法とその教え方 ②その他、市民館主催のブラッシュアップ研修 初心者向けの日本語のやさしい表現法、助詞の使い方、コミュニケーション法など	①2007年12月15日～2008年3月8日(9回・各2時間) ②年2回ほど各2～3時間×3年間	同じ初心者といっても、ビジネスマン、学生、主婦など、基礎的知識も生活環境もさまざまで、一緒に出来ない。一概に初級・中級では何を勉強しようという事はできず、それぞれのクラスで何を中心にするか、どんなことに気をつけるべきか、を教えてください。
541	37	3	3			
542	68	7	3	日本語ボランティア養成研修		ボランティア中心の日本語学級としても、来る学習者は日本語の修得、文法の理解に意欲をもった学習者が多い。市民館サイドで実施するボランティアに対する研修会では、自身の日本語の理解等は深まるが、それをいかに指導するかに長い間苦労した。特に媒介語を持たない初級学習者に対しての指導方法を具体的に教授してほしい。
543	74	10	3	日本語ボランティア養成研修 エス・ス・ラング東京「日本語教師養成講座」	平成11年9/22～12/15 24時間 2009年4/11～9/26 88時間	文法的に説明が出来る事を勉強する。 プロの方の教え方を見学する。
544	62	2.5	3	日本語教師養成講座	1年間 420H	
545	70	6	3	平成21年安城市国際交流協会主催「子供 日本語教室ボランティア養成講座」「外国人の子どものため日本語講座」「スキルアップ講座」 平成22年愛知県国際交流協会主催「日本語教室ボランティアスキルアップ講座」	6年	
546	32	4	3	・日本で生活する外国児童が抱える問題について 実際の体験談を交えた講座 ・日本語ボランティアの教室運営の仕方についての講座	2日×4時間くらい 2時間くらい	ボランティアとして様々な人がほぼ研修なしにそれぞれの方法で教えているので、教え方の統一性がとれるような研修があったら良いと思う。
547	38	2	3	平成22年度 愛知県国際交流協会主催「日本語教室 実践講座」	1日 1時間半位	
548	68	6	3	日本語教育実践講座 愛知県国際交流協会主催		
549	68	6	3	①安城市日本語立ち上げ研修 ②愛知県主催 日本語研修(2回) ③子供対象(学習)研修(愛知教育大学) ④安城市日本語研修(4～5回)	①6ヶ月(1回2時間くらい) ②2ヶ月 1日研修(10:00～15:00)弁当持ち ③1ヶ月 4回 1回2時間 ④1回2時間	
550	53	4	3	特になし		継続的な学習環境
551	38	5	3	一度もない	もちろんない	特になし
552	38	1	3	材料の選定について	約3時間	受講者のレベルを素早く判断する方法
553	48	6	3	①安城市主催のボランティア研修(立ち上げの為) ②愛知県主催のボランティア研修 ③安城市主催のボランティア研修(活動見直しの為)	①9ヶ月位 ②6回 ③4回(AM+PM)×2	時々初心に戻る必要があると思うのでボランティアの心得をなるべく多くのボランティアで改めて確認したい(皆で共通の意識を持つ必要がある)。細かいスキルについてはやりながら身につけていければいいと思う。
554	52	5	2	全くなし		研修内容: 文法の導入の仕方...いろいろな形式で 学生と目標に到達させるためのコーチング指導法 研修方法: 誰でもが自分のPCでできるオンデマンド方式のライブラリー式の研修(定員数、場所等制限がなく、時間を有効に使える)
555	31	6	1	日本語教育 ・上級の授業 ・中級読解	1日	記述について 上級で扱う副教材 超級 聴解
556	35	9	1	①聴解の仕方(方法) ②読解の方法 ③より会話を広げるには ④OPI 等	①2H20月 夏期 ブラッシュアップ ②H21 7月 ③H21 12月 ④4日×7時間=28時間	上級の授業の進め方 漢字学習
557	45	6	2	特になし		作文、記述指導に関する研修等。
558	53	13.2、3	なし			・応用力をつけさせる クラス活動について ・対象者別指導方法 ・心理学的要素を取り入れた指導法
559	41	18	2	①「聴解」授業の指導法	①約3ヵ月、約20H	・多文化共生授業法 ・パソコン、ネットを使った授業 ・ビジネス日本語の教育 ・学生のカウンセリング技術
560	28	5年7ヶ月	1	特になし		・新しく出版されたテキストの使用法や、それを使った授業の進め方について、実際に行いながら学ぶ。 ・学生の人数や、学習目的ごとの授業形態について、意見交換。 ・新聞や映画などの生教材を授業に生かす方法について(中・上級者向け)。
561	28	3.5	2	特になし		・東南アジアからの医療研修生に対する教授法 ・能力試験対策 ・東南アジアの学生に対する授業の進め方 ・非漢字圏の人に対する漢字の教え方
562	64	8	3	①文化庁日本語教育委託事業 「ボランティアのための成人および子どもの日本語教育研修講座」 聖徳大学主催 日本語の音声、文法、教授法等の講義とワークショップ等の実習(現場見学を含む) ②我孫子市国際交流協会主催 「日本語の教え方講座」 相手の状況に合わせた指導テクニックと模擬授業	①約4ヵ月 25回×3時間 75時間 ②約7ヵ月 24回×2時間 48時間 その他単発の研修	小学校低学年で、日本語が話せるが書く事が出来ない子供の教授法、漢字の楽しい覚え方。
563	69	8	3	(松戸市 柏市 野田市 等、近隣市が開催する国際交流協会ボランティア日本語講座) 指導方法、教具教材、初級文法、発音 等についての講義	(8年間)12回×2H 24H	1)指導方法については、「自分の主観的枠内での自問自答になっていないか」との立場で見直しているが、より客観的な判断材料にするために、模擬授業に接する機会がほしい。 2)児童が持つストレス(家庭環境等により異なるが)に共感することで学習中断が生じる。ストレスの内容も千差万別とは考えられるが、対応方法の事例について学ぶ機会がほしい。
564	65	2	3	日本語の教え方講座(我孫子市国際交流協会主催)	2008年6月17日～2009年2月3日(8月は休み) 午後1:30～3:30 2時間 24回	
565	73	8	3	特になし 次のインターネット情報を利用している ①国際交流基金日本語国際センター 日本語教育、日本語教材など ②「日本語を教える人にとっても役立つサイト」に掲載されている各サイトなど	必要のつど	
566	71	4	3	①我孫子市日本語教師講座 ②外国人児童生徒日本語支援ボランティア研修 ③近隣国際交流協会主催 ボランティア日本語講座 レベルアップ講座 参加	①2008/6～2009/2 48時間 ②2007年2008年度 4日間16時間 ③2007年～2010年 年に2回 1回2時間	
567	71	25	3	①英語圏学習者指導法 ②中・上級指導法 ③日本語教育のための(ボランティア活動)レベルアップ講座 ④外国人児童生徒日本語支援ボランティア研修 ⑤千葉県地域日本語教育指導員(コーディネーター)研修 ⑥日本語を母国語としない子供の日本語学習支援(サバイバル日本語講座) 他	①1994年 20時間 ②1994年 6時間 ③2001～2008年 各年10回 ④2007～2008年 計20時間 ⑤2001年 12時間 ⑥2006年 3時間	学校での日本語支援の時に、教科の内容に入らなくて、最低必要な学習言語をどの程度教えるか、またその教材について。
568	66	15	3	①ボランティアとして地域で日本語を教える時の心得、教え方等の講座/ワークショップ ②音声・文法・評価法で教える方のポイント等のstep up研修 ③外国人児童・生徒の日本語を支援するための指導の実践例・指導法、指導の留意点、心理面でのサポート等の研修 ・USLカリキュラム ④第二言語修得論と語学教育についての研修	①3ヵ月・36時間/2日 4時間 合計40時間 ②2001年～2009年 年4～5回 及び 成人と子供の日本語教育研修の一部として12回 合計120時間 ③4日・16時間(2007年度)／2日・4時間(2008年度)／2日・6時間(2006年度)／研修の一部として8回 24時間 合計50時間 ④4日・12時間(2005年度)	1. 日本に来たばかりで日本語0の子供に、限られた期間(例えば週2回、1回2時間指導で40時間)の中で、早く学校生活に慣れ、楽しく友達とやっていけるように効率よく日本語指導するには、何からどのように教えていくのが良いのか。 2. 日本語指導の結果が教室での学習と結びつくようにするための指導の仕方及び教材(学年別)に。 3. 学習効果をあげる為には、子供の心を開かせ、日本語を勉強する意欲を引き出すことが大切だと思うが、日本語が0に近い子供(特に低学年の子供、及び問題を抱えている子供)を早く落ち着いて学習に向かわせる良い方法(心理的ケアを含めて)。 4. ひらがな・カタカナ(漢字)を覚えられない子供、書くことを嫌がる子供の指導方法。
569	38	8	2			日本語を教えるだけでなく、生徒の実生活に一歩踏み込んだ関係であるべきではないか。それに合わせて優先して学習する内容や、不要な課を変更する。 公共機関やケータイの手続きなど、細かい説明も補助してあげられると、実生活に密着することによって、信頼感も生まれるのではないかと。日本語教師+カウンセラーという立場を公言することによって、生徒も安心して教師に頼ることができるのでは。
570	55	10	3	文化庁日本語教育委託事業 ①ボランティアのための「成人および子どもの日本語教育」研修講座 ②「職業スキルを活用する日本語教師養成講座」 ③「地域の日本語教育を指導・助言する上級教師養成講座」 ④「地域社会への適応・参加を重視した日本語指導者養成講座」 (以上 聖徳大学言語文化研究所主催) ⑤AJALT「公立小・中学校に在籍外国人児童・生徒の支援者を対象とする講座」 ⑥松戸市日本語指導者研修会「教科学習につながる日本語指導」	①平成20年9月27日～平成21年2月7日 70時間 ②平成21年6月22日～8月1日 30時間 ③平成21年8月29日～10月10日 24時間 ④平成22年10月2日～12月18日 30時間 ⑤平成22年8月21日 6時間 ⑥平成19年～平成22年(年2回・1時間) 7時間	・初期指導から学習に必要な日本語を教えていく。 ・読む、書く、聞く、話すの4技能をバランスよく伸ばす。 ・出身国別による効果的な日本語指導のやり方。 ・児童・生徒に使える「Can-Do」。
571	68	約10	3	①日本語ボランティア意見交換 コミュニケーションと文法を考える ②サバイバル講座(1人1人の子供と向き合う指導とは)	①10時～16時(1日) ②10時30分～15時30分(1日)	・教科書の内容だけでなく、実際の(現在に即した)会話場面(ことば、文化など)を多く取り入れた場面の紹介。 ・漢字を教える時間と方法を授業内でどのように考えていけば効率が良いか。
572	65	20	2	プリンストン大学日本語教育研修 IELT 英国国際教育研究所 その他講座名多数記載有り 日本語教師現職者研修講座 など	2002年 1週間 2008年 1年間 留学 1994年～現在 年間5～6回	石川県国際交流協会では現職者に対していろいろな研修講座を開催しておりそれに参加できる環境にあるのはとても嬉しいことだ。今までの文法、語彙、音声、教授法などの講義はいろいろ受講してきたが、実際に学生を教える中で心理学やいろいろな国の文化の違い、ものの考え方の違い、哲学宗教などの学習をより一層深く学ぶ必要があると思っている。学生たちは日本に来て異文化に接している生活場面で戸惑ったり悩んだりしている。そのほかインターネットを使った日本語教育や、パワーポイントを使った言語教育のメリットやその限界、パソコンを使いこなすための学習法など。
573	55	15	2	プリンストン大学日本語教育研修 「ITコース: 企業の情報化活動研究入門」を使った「モデル授業」 その他講座名多数記載有り	2000年 1週間 2009年 3日間 14時間	・教科書執筆による具体的な指導法 ・特に韓国語、中国語話者への効果的な発音指導 ・視聴覚教材の効果的な使用法 あらゆる部門で、専門性の高い研修を希望

日本語教員等の養成・研修に関する個別調査結果(日本語教員等回答)

※勤務形態の1は常勤、2は非常勤、3はボランティアである。

資料6

番号	年齢	経験年数	勤務形態	研修内容	研修期間・時間	今後の要望
574	65	22	2	小泉保先生 言語学、日本語教育概論 シュテパン・カイザー先生 非漢字圏学習者に対する漢字教育 プリンストン大学日本語教育研修 土岐哲先生 リズムとイントネーション 西尾鈴子先生 語用論と日本語教育 才田いづみ先生 教室活動とその分析 小出慶一先生 読解を中心とした中級教材の作成 野田尚史先生 日本語教育のための日本語文法 永保澄雄先生 教授法 松崎寛先生 音律指導の理論と方法 J・Vネウストブニー先生 日本語教育における敬語の考え方 川口義一先生 初級の発音指導	平成6年 3時間 平成8年 3時間 平成8年 3時間 平成8年 3時間 平成9年 3時間 平成10年 3時間 平成13年 1週間 平成10年 3時間 平成11年 3時間 平成11年 3時間	日本語を学ぼうとする学習者のニーズに的確に対応できるように常に研鑽を積むことが求められているが特にわれわれの対象とする学習者は年齢、レベル、動機など多種多様であるため、教師側も常に日本語教育界の生きた現状を知らなければならぬ。このためには新しい教材研究も大切である。ドンドン開発される様々な教材を研究し、使わせてもらい教材適所で効果的なカリキュラムを構成しなければならぬ。そのため新しいテキストを開発された先生方にその効果的な使い方を指導していただくのもいいと思います。
575	49	1.5	2	プリンストン大学東洋学部 牧野成一教授 『日本語は「自分」(Self)をどうとらえているのか』	平成21年 3時間	・音声教育に関する具体的な指導法紹介やワークショップ的な研修 ・日本語教育環境における最新状況・情報についての研修(旧との比較も含む) ・在住者、研修のための短期滞在者等、必要性が違うそれぞれに対応する指導法 ・上級学習者に対する指導法を考える研修 ・パワーポイントをはじめとした、最新OA機器を使った効果的な学習方法とOA機器の有効な、また、便利な使い方の紹介
576				AOTS日本語教育センター長 春原憲一郎 「地域が活き活きとする日本語教育支援に向けて—移民受入前夜にあたり—」	平成21年 3時間	
577				『みんなの日本語中級Ⅰ』執筆協力者 田中よね 『みんなの日本語中級Ⅰ』を使って教える	平成21年 3時間	
578				早稲田大学大学院教授 戸田貴子 「シャドーイングを導入した教室活動」	平成21年 3時間	
579				プリンストン大学東洋学部 牧野成一教授 「翻訳で何が失われるか」	平成22年 3時間	
580				筑波大学留学生センター非常勤講師 ポイクマン総子 「会話教材の開発とその実践— 『聞いて覚える話し方 日本語中級 初中級編』を使って—」	平成22年 3時間	
581				金沢大学留学生センター 松田真希子 「外国人とおしゃべりしよう! 『にほんごこれだけ!』の使い方—」	平成22年 3時間	
582				「言語政策・教育・学習」	平成22年 3時間	
583	53	10	2	研修目的記載有り 石川県国際交流協会が主催する研修講座 その他講座名多数記載有り プリンストン大学日本語教育研修	各3時間	地域で学ぶ学習者や大学で日本語を学ぶ学生への効果的な教授法、また時代に即した教授方等について。
584	55	16	2	プリンストン大学日本語教育研修 「ITコース・企業の情報化活動研究入門」を使った「モデル授業」 松崎寛先生 音律指導の理論と方法 小出慶一先生 読解を中心とした中級教材の作成 横溝紳一郎先生 「アクションリサーチ概論」 才田いづみ先生 教室活動とその分析 牧野成一先生 「話す能力をどう伸ばすか」 春原憲一郎先生 「地域が活き活きとする日本語教育支援に向けて」 平高史也先生 「言語政策・教育・学習」 牧野成一先生 「日本語は「自分」をどうとらえているのか」 牧野成一先生 「アニメの文化的視点をどうとらえるか」 徳増ゆかり先生 「パワーポイントを使った授業」 牧野成一先生 「外国語としての日本語・英語の話す能力測定法」 牧野成一先生 「日本語と日本文化の窓としての複数形マーカーの『たち』」 牧野成一先生 「ロールプレイで文化能力も測れるか」 小林由子先生 「認知心理学から考える日本語学習」 田中よね先生 「みんなの日本語Ⅱの教え方」 吉岡秀幸先生 「視覚教材の効果的な使用法」 現職日本語講師集中専門講座 春原憲一郎先生 『新日本語の中級』作成の理論とそれを使った授業 牧野成一先生 「文化能力基準の可能性」	2005年 1週間 2009年 3日間 14時間 1996年 3時間 1997年 6時間 1998年 3時間 1999年 3時間 1999年 6時間 2000年 6時間 2001年 30時間 2002年 6時間 2003年 3時間 2004年 3時間 2005年 6時間 2006年 6時間 2007年 6時間 2008年 3時間 2008年 3時間 2009年 3時間 2009年 3時間 2010年 3時間	CEFRに基づきヨーロッパ各国の外国語教育の現状をCEFRの日本の取り組みの現状を把握するための講座が必要と思う。昨年ドイツでCEFRを取り入れた授業についての発表に参加する機会があった。発表者が「CEFRはわかりにくく、またそこが魅力なのだ」と言っていた。わかりにくい物が外国語教育の指針になっているのであろうか。できればわかりやすい説明と日本での取り組みを知りたい。
585	66	25	2	視覚教材研究会 モナッシュ大学日本語教育研修 プリンストン大学日本語教育研修 その他講座名多数記載有り	1993年頃 10時間 1995年 1週間 1999年 1週間	境遇、環境、性格、志向等々、様々なタイプの学習者を対象に教えていて、時には教授法だけでは対応しきれない時がある。そんな時、学習(者)心理学なるものを身につける必要を感じるが、そのような研修講座はこれまでになかったように思えるので、あったら、是非受けたいと思う。石川県は20年ほど前から、かなりの数の各種研修講座やセミナーを開催していて、現職者として感謝するとともに、大変恵まれた環境にあると自覚もしている。今、今と、特に他は望むところは無い。あとは自身の努力と研鑽に俟つかないと思う。
586	63	29	2	石川県日本語教師養成講座(現職者コース) 日本語教育夏季研修(初級研修) 日本語教育夏季研修(現職者研修) 第3回日本語集中研修会 プリンストン大学日本語教育研修 日本語教師現職者研修講座 など その他講座名多数記載有り	1983年 11日間 1986年 1週間 1988年 1週間 1988年 4日間 2002年 5日間 2003年 1週間 年間5~6回	・現在、実際に行われているIT機器を活用した活用例 ・今後の日本語教育はどのように変わっていくと思われるか ・今後、日本語教師に求められることは？
587	44	19		日本外国語専門学校 日本語教員養成講座 言語学、音声学、日本語教授法等 日本語教育学会 日本語教育研修講座 理論課程 言語学、音声学、日本語教授法等 日本語教育学会 日本語教育研修講座 実習課程 OJT式の日本語教室運営	1991年~92年 約200時間 1992年~93年 約300時間 1993年~94年 約300時間	石川県においては、すでに日本語教室がある地域を対象とした研修と、地域内に日本語教室がない場合の研修とは分けて考える必要があると思います。すでに日本語教室がある地域では、実際にはすでにある日本語教室へ新たな日本語サポーターを供給する役割を事実上持つことになり。そこでは、既存の教室のニーズを踏まえた研修内容を選択する必要があると思います。また、地域内に日本語教室がなく、新規教室の立ち上げを前提に養成講座を開講する場合、教室での日本語教授法のスキルを教えることに留まらず、地域を巻き込んで講座を運営していく必要があると思います。例えば、講座に参加者としてキーパーソンや既存の団体を取り組む、講座中に受講者間の協力関係を築く、講座で取り扱う内容をその地域の現状を踏まえた内容としておく、OJT形式の活動を加え教室開講の下地作りをする。など、講座運営側には、講座の内容を決めていくだけでなく、講座を地域の中にもどう位置づけていくまで考える必要があると思います。地域日本語教育の日本語教師研修の内容をきめる際には、どのような科目をどのように並べるかを定めるだけでなく、研修自体を地域の行事としてどう位置づけるかを地域の人と話し合っていく必要があるのではないかと考えます。
588	42	4	2	・日本語講師スキルアップ塾 ・シャドーイングを導入した教室活動 ・翻訳で何が失われるか ・ピアラーニングのすすめ ・日本語は「自分」をどうとらえるか	8ヶ月 31時間	
589	35	11	1	年少者日本語教育 カリキュラム評価など		研修内容はやはり日本の現状を反映したものが多いと思います(年少者教育など)ただ、東京だけでなく大阪(関西)でも聞いていただければと思います。
590	36	3	2	・教材開発 ・日本語教育に役立つウェブサイト紹介 ・話すことを教える ・活動中心の日本語学習 ・日本語教師の役割、コースデザイン ・初級文法を教える など	1日(2時間~3時間)	・子供日本語(子供のための日本語教育) ・ファシリテーション(ファシリテーターとしての日本語教師) ・日本語教育機関と地域が一体で行う日本語教育(ボランティアや地域社会とどう連携していくのが効果的か)
591	54	15	2	大阪外国語大学 日本語学聴講生 日本語教授法、教材研究、第二言語習得過程 他 日本語教師になるためのセミナー その他学内研修 学外単発研修 など	2年間 1年間	・教授法(教え方) ・教材研究 など
592	31	9	2	学校での教材の扱いなど 学校で扱う教材、教え方 作文の添削 会話のさせ方 読解力 IT	2, 3日 1ヶ月 約2時間 約2時間 約2時間 約2時間	・ワード、エクセルなどを使ったIT関連の研修 パワーポイント ・アクセントや発音の矯正の仕方 ・学生のモチベーションを上げる方法など精神面のケアの仕方 ・進路指導
593	38	10	1	教材や評価にちがいの外部の研修	10時間程度	教授法、教材開発、評価法、心理学、カウンセリングなど 東京だけでなく、大阪でも頻繁に行われることを願います。
594	38	9	1	何を書いたらいいかわからないとのこと		・指導法(新人・中堅向け) ・日本語学校と大学との間の情報交換のようなもの ・発音の矯正の仕方 ・学習相談、進路相談をどのように進めるか ・評価の方法(学習者に向けて/カリキュラム運営/教師に向けて) ・子供向けの日本語教育 ・異文化適応(概論と適応が難しい学習者への対応の仕方)
595	47	24	1	国立国語研究所 長期専門研修C(中学校教師3名+日本語教師3名による小学校高学年の社会、理科の教科書分析) 日本語教育学会 日本語教育研修コース(講義) 日本語教育学会 日本語教育研修コース(講義) 日本語教育学会 日本語教育研修コース(論文)	平成7年4月~8年3月 約216時間(任意の活動) 6時間/週×36週 平成9年10月~10年3月 36時間 平成10年4月~10年7月 36時間 平成11年10月~12年3月 36時間	・中堅教師、現職者向けの研修 ・統計、ITなど実践にかかわる周辺のスキルに関する研修 ・日本語教育の基礎をなす学術分野の入門、概論(これは日本語教育を行う上でというより小中学校の教員向けに)日本語指導の研修および言語学、特に第一および第二言語習得の基礎を養うような研修